

# 2011年度事業報告書

- 1.全体の報告(成果と課題)…P1
  - A ボランティアセンター…P3
  - B NPO活動推進センター…P8
  - C 若者自立支援…P11
  - D 情報センター…P16
  - E 調査・研究・ネットワーク…18
  - F フードバンク宇都宮…P20
  - G 災害ボランティアオールとちぎ…P22
  - H とちぎコミュニティファンド…P30
- 2.その他の事業 3.財政運営 4.組織運営…P34

## 1. 全体の報告 (評価)

### 【成果】

#### ①ボランティア4万時間の寄付で、救援・復興支援活動ができた。

41,581時間のボランティアで東日本大震災の救援・復興支援が行われた。8時間で換算すると5,284人(日)分、これを最低賃金で換算すると29,106,700円となる。これだけの時間(労力)を寄付され救援活動ができたことは誇りである。本会の使命である「ボランティア活動の推進」という視点では大成功といえる。この数字からはボランティアの力がいかに大きいかが実証された。お金にならない無言の働きによって公益の社会は維持されてきていたのである。

一方で、「東日本大震災の救援・復興」という視点ではまったく力量不足であった。4万時間を本会だけの事実にとどめず、他団体がこぞってボランティアとともに4万時間を実現するよう啓発・普及する必要がある。

#### ②フードバンク事業による生活困窮者への民間独自のセーフティネットの実現

当期から職員を採用し本格的に事業を始めたが、当初7月までは東日本大震災の影響でなかなか事業を実施できなかった。夏以降仙台の「ふうどばんく東北AGAIN」や「ワンファミリー仙台」とともに宇都宮の路上生活困窮者の実地調査を行い、フードバンクの仕組みを活用しつつ生活困窮者の応援をしてきた。以後、毎週火曜日の夜10時～12時には「夜回り」で安否確認し、月1回は「食事会」を実施した。年末にはフードドライブを行い、家庭から食品を受贈いただいた。また、とちぎコープから倉庫の提供(貸出)をいただくなど、フードバンクの基本機能が整った1年であった。秋口からこれまでに、在宅で困窮生活をしている家庭から食料支援の要請が10件以上あり、隠れた貧困があることが覗えた。生活保護とは別の民間独自のセーフティネットが立ちあげられたことは特筆すべきであろう。

#### ③「個別SOSの解決」をはかる事業として社会的包摂サポートセンターへの事業協力ができた

年末から社会的包摂ワンストップ支援事業が始まり、本会を中心に栃木県内の民間団体・個人のネットワークで「地域センター栃木」を立ち上げた。この事業は「分野縦割りで、どの法律の枠にも入らない人からのSOSを受け」、他機関を紹介するのみでなく「同行支援」を行い、最後までその人のSOSの解決につなげるという事業である。これは本会が設立時から行ってきた「個別SOSの解決」の問題解決手法そのものであることから急きょ重点事業として取り組んだ。実際の事業は本会が受託する形ではなく、別団体に「個別に職員が協力する」という形で行われている。2012年度以降の事業実施も不透明だが、本来必要な事業として「パーソナル・サポートセンター」の受託等を念頭に事業を行っていく。

#### ④とちぎコミュニティ基金の強化やNPOのファンドレイザー育成により、寄付文化を醸成

新しい公共支援事業の委託金を受け、「とちぎコミュニティ基金」の事務局能力の強化とウェブサイトのリニューアルが実現し、NPOの情報公開が進んだ。一方で認定NPO法人制度とNPOへの寄付優遇税制が拡充したことから、各NPO法人のファンドレイザー(資金調達担当者)の資質の向上のため、同事業の委託を活用しファンドレイザーの育成に取り組んだ。当初は「寄付金が集まらない」とあきらめていた団体も毎月の研修や寄付ハイクなどの寄付イベントを通じて徐々に可能性を見出すようになってきた。寄付は「未来をつくるもう一つの方法」としてNPOが意識する端緒になった。

#### **⑤認定NPO法人制度改正。NPO法人寄付優遇税制(寄付金の所得控除)が実現した。**

NPO法の成立の本来の目的であった、NPOへの寄付優遇税制(税額控除方式)と、新認定NPO法人制度が6月に成立した。17年間国会へのロビー活動を続けてきた中央の団体や、全国のNPO支援センターと市民活動推進団体のネットワークによる運動の成果である。「認定NPO法人」への寄付優遇税制は従来の所得控除の他に「寄付額の40%を国税から税額控除し、10%を県民税・市町村民税から税額控除」をするというもので、所得控除か税額控除かは寄付者の選択制である。

これは「市民が行う公共の活動を国が支援する」とも言えるし、「税金の使途を自分で決められる」とも言える。社会問題の解決の方法を変えた快挙であり、税金によらない自治の仕組みが独自に展開できることにもつながる。

#### **⑥会員の増加、WEB媒体による情報の充実が図られた。**

今年1年で会員が90人増加した。10年以上会員の漸減が続いていたものが東日本大震災での活動の結果、ボランティア参加者や寄付者のなかから会員が現れた。また、今回の震災ボランティアの特徴は新聞を見てきたという人より、ツイッターやホームページで知ったという人が多かった。WEB媒体による情報発信や寄付募集に力をいれたことが功を奏した。年度後半から一層、WEB媒体の情報発信に力を入れた。

### **【現状と課題】**

#### **●次の大災害のための“構え”と知恵の継承**

東日本大震災では4万時間のボランティアの労力の提供、1900万円の寄付で救援活動が行えたが、これはあくまでも活動報告のレベルでの評価である。大切なのは「33万人の被災者にとって」である。

これらの人(ボランティア)の量、人の質、組織、継続性の4つの観点から本会の活動を評価すると、

「量」:3000人をコーディネートするのは物理的にこれが限界。しかし現実にはあと10倍の人が必要である。

「質」:初心者ボランティアを継続ボランティアにしていく「育てる」力量が足りない。

「組織」:過去の経験を今に応用できるスタッフが少ない。ボランティアの取り組みを組織内に反映させ、組織化・事業化していく能力が足りない。そして組織や人の継続性を担保するもの(資金・仕組)が少ない。

震災による救援活動は、今までにない発想や仕組みを考えなければならない瞬間であり、ある意味で民間非営利団体のイノベーション(技術革新)の時期でもある。しかしそのタイミングに乗れるかどうかは、その組織の日頃の構え(姿勢)ができていなければならない。これまでの本会の構えはこの震災救援には「それなりに乗れた」というべきであろう。しかし、次の災害には通用するかは不明である。その時のためにはノウハウの伝授と援助の技術革新が必要である。

#### **●東日本大震災後の社会課題の拡大と深刻化。**

この震災では被災地自治体への以外にも間接的に影響を与えた。まだあまり表面化していないが、本会のフードバンク宇都宮では避難者や宇都宮駅の困窮者に震災で家や職を失った人を何名も支援している。仮設住宅12万戸のうち半数の6万戸が民間賃貸住宅借り上げ仮設(みなし仮設住宅)であるが、この家賃補助期限が切れる2年後にはさらに失業と家の問題が拡大するであろう。また、若者の有効求人倍率は県内で0.78倍であり、本会が対応している層の若者は数年以上すでに職がなく、今後も就職の見通しが無い。

### ●個別SOSに対応できるボランティアの広範な育成が必要。(介護・地域福祉、若者支援、災害救援)

年度末から「社会的包摂ワンストップ支援事業」の事業協力を始めた。本会の根幹の仕事は、個人・個別のSOSをボランティアなど社会資源を総動員して解決することであり、これまでやってきたことが社会システムになりつつあるとも考えられる。一方でこのことは国が「社会保障」として行うべきかという、明確にそうであるとは言えない。むしろ日本社会の「ワンストップのたすけあい」を活性化することに本来の力点があり、それらの営みを国等が補助・助成して補い促進させるべきであろう。

社会的包摂の中央センターによると「よりそいホットライン」の全国の総コール数は1日2万件。しかしこれでも氷山の一角であり、どれだけ国の予算を使っても問題解決には至らないだろう。重要なのは「ワンストップのSOS解決という方法」である。ボランティアも社会資源も総動員した1人を支援するつながりを作るべきである。無縁を孤立無援にしないためには個別SOSに対応できるボランティアの広範な育成とその組織が必要である。

### ●会員の活動活性化と助け合いを形作るボランティア活動の提案。

会員が700人になったとは言っても関係性は毎月のボランティア情報でのつながりがほとんどである。会員の多くは「ボランティアに関わりたい」思って会員になったはずだが、これまでは(宇都宮の)事務局からの一方的な情報の提供だけであった。本会の活動に参加する機会を作って来なかったのが過去10年間の反省事項でもある。「会員自身の活性化」や「会員をとりまく人の助け合いを活性化する」ことを今後の事業の柱としていく必要がある。「おとりさま社会」はもう当たり前だが、これを無縁社会にしないための具体的な活動をフードバンクの地域化(旧・市町村単位でのフードバンク)を始める等の方策で開始する必要がある。

### ●事業の拡大にともなう財源確保と、職員の高齢化等による人事・事業の見直し、中期計画の策定が必要

昨年、今年と事業が急拡大した。だがこれは緊急救援や2年間の委託事業などであり、継続的な事業ではない。これらの後継事業と資金をどのように捻出するかが課題である。災害救援活動の縮小に伴う被災地との継続的なつながりづくり、またとちぎコミュニティ基金の運営と事務局体制作り、フードバンク宇都宮の人件費の確保などそれぞれに課題を抱えている。

また、本会は2015年に設立20年を迎える。その後のさらなる20年後に向けて、本会が栃木の市民活動の分野でどのような役割を担っていくのか、次期スタッフの育成や会員に活動の活性化など組織の在り方も含めて、中長期のビジョンを検討しなければならない。

## 事業報告 A. 【ボランティアセンター】

### (1)ボランティア・コーディネーション事業 (Vに関する相談・助言事業)

「ボランティアしたい」活動希望者に活動の場を紹介するとともに、「ボランティアの応援求む」ニーズに対応するためボランティアの需給調整をおこなった。困難ケースは相談・援助をし、解決を図った。

また「個別SOS」の対応のなかでも若者系のSOS対応は「若者サポステ」で、生活困窮者からのものは「フードバンク宇都宮」で対応しているのでボランティア・コーディネーション事業での相談対応は一見少な

く見えるが、これらを含めると「個別SOS」は総数として増えている。

さらに、年度末の3月になって厚生労働省の「社会的包摂ワンストップ相談支援事業」の関係で、一般社団法人社会的包摂サポートセンター(東京)の栃木支部として、本会事務所に「地域センター栃木」の事務所を開設し、電話相談と同行支援を行った。この事業は本会が行ってきた「個別SOS」対応を事業化したものであることから、即決で受託することを決め、年末から事業実施の準備をしていた。だが同事業は本会が受託する形態ではなく、本会職員等が個人として「サポートセンター」にアルバイトとして雇われる形になるが、本会の本来事業と同等の扱いとし、業務時間内に相談対応にあたらせた。次年度も継続事業となった。

相談件数は**28件**で、**震災関連、生活困窮者、ホームレス**からのSOSが多かった。**住居と職がなく「無縁」**であることが課題である。

<p><b>ボランティアコーディネーション (28件)</b>  <b>(ボランティアの応援求む)</b>          ○那須町に来た避難者の介護専門職ボラの派遣求む(矢野)          ○避難者の引っ越しSOS対応(徳山)          ○県高齢対策課から日光のホテルに避難している要介護高齢者7世帯20人の介護専門職のボランティア派遣要請。CLC・池田さんにつきなぎ応援依頼(矢野)          ○雇用促進住宅引越しボラ(徳山)          ○那須塩原市の避難者の引越しV(徳山)          ○パキスタン人難民母子のSOS対応。東京のNGO・難民支援協会から電話あり、足利の40代のパキスタン人女性が食料・金・衣服ないとのこと。1時間後本人から電話あり、とちぎYMCA大浦さんと足利市民活動センターに電話し対応依頼。食事の供与は地元の関係団体につなげる。国際交流協会と協議し対応するとのこと。→翌日になって足利の団体が対応しないので、直接訪問支援。(石川)</p>	<p>○市内スーパーの駐車場の車に生活している46歳男性から電話あり、職を探しているとのこと。会って事情をきき、SOS対応した。年末から真岡のアパートを出され、派遣も解雇とのこと。今日の泊まる所と生保申請まで中野・原田・宇賀神チームで夕方までに段取りした。(矢野・石川・中野)  <b>(継続)</b>          ○継続4：ホームレス状態の知的障害女性の対応。月6万円の障害福祉年金があるので1泊2000円の漫画喫茶で暮らし、金がなくなると公園で野宿。1/27：知的障害者のホームレス女性のケース検討会。その後グループホームへ誘い、無事準ホームレス状態から脱出。(菊池・門馬・徳山)          ○継続6：高校1年生車いす者の校内付き添いボラ打合(菊池・金井・渡辺み・岩井・大学生と両親)          ○継続7：白河仮設の父子家庭の児童扶養手当等の受給SOS対応(菊池・二平)</p>
--	--

**■社会的包摂(よりそいホットライン) 経過(研修・会議等)**

<p>2/25-26 社会的包摂の研修：「まじくるフェスタ」：(東京・府中市生涯学習センター/矢野、菊池、中野、安藤)          3/5-7 社会的包摂「よりそいホットライン」電話対応研修(矢野、徳山、飯山、滝田、石川、山田、青木、菊池、山田、中野/盛岡)          3/9「よりそいホットライン」会議(矢野、石川、徳山、中野、赤木、山田、滝田、飯山、早川)</p>	<p>3/11 社会的包摂支援センター「よりそいホットライン地域センター栃木」を開始          3/31「よりそいホットライン」会議(山田、早川、滝田、飯山、菊池、矢野、赤木、中野)</p>
---	---

**(2)一芸ボランティア事業 (Vに関する相談・助言事業)**

勤労者のボランティア活動と福祉施設のボランティアのマッチングを促進するため、1年に1回～数回程度の単発ボランティアの機会を提供する「一芸ボランティア」を7年前から実施している。今年は**25件**の依頼に対応した。今期は**東日本大震災の影響で件数が少なかった**。

この事業は受入施設側の評価も高くボランティアの満足度も高いが、ボランティアを導入し入居者のQOLを高める視点でボランティアを受け入れる福祉施設はまれである。施設側の意識の変化が求められる。コーディネーションの運営経費捻出やコーディネーターの後任も課題である。

**■2011年度ボランティアコーディネート実績**

件数	施設名(依頼者)	ジャンル(活動者数)	コーディネート実施日	ボランティア実施日	コーディネート経過	感想等
1	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	1月25日	4月7日(木)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	利用者人数26人、スタッフ4人。いつも喜ばれて、次回の訪問も楽しみということでした。
2	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	2月22日	4月22日(金)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	今日のボランティアはとても気分が良い環境でした。利用者さんの真摯な傾聴と拍手に、ボラした方が楽しませていただきました。利用者26人。スタッフ4人。
3	宇都宮市西地区ふれあい昼食会	尺八・マジック(1人)	3月31日	5月18日(金)11:00~12:00	東日本大震災の影響で再依頼を受ける。	初めて訪問したのに、待ってましたの声をいただき、楽しくやってきました。マジックの方が受けが良かったように感じました。30人参加。
4	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	4月22日	6月16日(木)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	利用者数27人、スタッフ4人。

5	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	4月7日	6月21日(火)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	利用者数31人、スタッフ4人。
6	グループホーム宇都宮ファミリー	ケーナと尺八の演奏(2人)	6月22日	7月7日(木)10:30~11:15	たなばたにちなんで7月7日のボランティア依頼を受ける。オカリナのMさんへ打診するが、予定が入っていてダメ。音楽体操・民謡のNさんに打診するが、やはり予定が入りダメ。施設は七夕にちなんだ時間にしたいらしいことから、他に相応しいボラが見当たらず、Iさんに打診し返事を待つ。同日回答をいただく。施設へ報告して完了。	利用者15人、スタッフ6人。終わってから感想を聞きましたら、しびれましたという声をいただきました。
7	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	6月21日	8月5日(金)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	訪問する日を変える工夫をしているが、自分たちのボラの日に集中するらしく、今日は35人の利用者がいました。
8	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	6月16日	8月24日(水)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	利用者数28人、スタッフ2人。
9	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏&マジック(2人)	8月5日 9月12日	9月14日(水)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。前々日に敬老会と題したボランティアにしたいので、いつもと違った趣向でやってほしいと依頼があり、2人でマジックを披露した。	月2回来てくれよと、利用者さん。そんなに来ちゃ飽きるでしょ?と尋ねると、飽きないよ、という返事。うれしいですね。利用者33人。スタッフ4人。
10	宿郷北自治会	尺八・マジック(1人)	5月7日	9月17日(土)11:00~12:00	定例的な依頼に基づくものです。	毎回楽しみにしているよという言葉に、本当にありがたいと感じました。皆さん本当に楽しまれているんですね。参加お年寄り18人。事務局10人。
11	サボセン祭り	フォルクローレとバラエティー演芸(3人)	9月1日	9月23日(金・祝)11:20~11:40	一芸ボラのIさんが申し込むが、齋藤に依頼を受けたので、一芸の実績とする。	十分な練習無でしたが、まとまりました。お客様は30人程度でした。
12	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	8月24日	10月14日(金)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	待ってたよ、と利用者さん。利用者25人、事務局3人。
13	パルティ祭り	フォルクローレとバラエティー演芸(3人)	9月23日	11月12日(土)11:00~11:20	一芸ボラのIさんが申し込むが、齋藤に依頼を受けたので、一芸の実績とする。	ステージでの演奏。30人位聞いていましたが、賑やかで満足できませんでした。
14	上戸祭小学校	箏曲の演奏(3人)	9月1日	11月15日(火)8:30~12:00	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環で、宮城会のY先生から依頼される。一芸ボラの実績とする。	6年生3クラスで約90人の児童でした。2つのグループに分けて2回の授業でしたが、子どもたちはわんぱくで、私は疲れ切っていました。先生たちは大変だなと感じました。
15	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	9月14日	11月22日(火)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	今回は利用者さんが多かったです。私たちのボランティアを待っていたようで、励みになります。利用者35人、スタッフ4人。
16	ツクイ宇都宮東	オカリナ(4人)	11月11日 11月16日 11月17日	11月25日(金)14:00~14:40	No.159へ電話するが仕事でダメ。No.170、171へ依頼しようとしたが施設にピアノがないことを確認、依頼せず。No.186へ電話で回答待ち。15日にNo.186から電話あるが、齋藤が休みで連絡とれず。翌16日に齋藤が2回電話するが、不在のため連絡とれず。施設は21日の週を所望されているため、間に合わないことを想定しNo.186を諦めて、No.149に依頼する。17日No.149からお受けいただく回答あり。No.186へはお詫びの連絡を入れる。	齋藤の感想：オカリナの二重奏はなかなか迫力があり、減多に耳にしない。オカリナは元々一人で吹奏する楽器だそうです。手作りのマラカスを持参され、利用者さん一人一人に配り、利用者さん全員が一つの曲で気持ちが一つになりました。施設スタッフはボランティアの演奏を盛り上げようと声援を送ったりと、ボランティアも楽しかったように映りました。手作りのマラカスの大合奏で歌や笑いで楽しい時間でした。ボランティアで日頃の練習を発表してみませんか? 利用者35人 スタッフ5人。
17	清原デイサービス おおぞら	ケーナと尺八の演奏(2人)	11月12日	12月2日(金)14:00~15:00	一芸ボラのIさんからの依頼。一芸ボラの実績とする。	うまいところで掛け声をいただき、やり易い施設でした。利用者の皆さん、楽しんでいるのが肌で感じるボランティアでした。利用者33人、スタッフ3人。
18	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	10月14日	12月14日(水)14:00~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	利用者33人、スタッフ4人。
19	デイサービス	・マジック	10月24日	12月22日	一芸ボラのSさんから、ボランテ	一年ぶりの訪問で、初めての利用者さんも

	スにしはら	ク・尺八 (2人)	10月25日	(木)14:00 ~15:00	イアのピンチヒッターの依頼を受け、マッチングする。内容はマジックの依頼を受けたが、メンバーで対応できない事から、昨年の実績がある斎藤に依頼があった。マジックのIさんに確認し、承諾をいただく。斎藤もボラすることを施設へ報告して完了。	いました。感激されて来年のお約束もしてきました。利用者10人、スタッフ10人。
20	ツクイ宇都宮東	尺八の演奏(1人)	11月9日	12月23日 (金)13:10 ~13:40	ツクイの職員がとちぎボランティアネットワークを知っており、依頼を受ける。30分程度の時間であり、暮れも迫っていることから、斎藤一人での対応とした。	初めての施設でしたので、私も利用者さんも最初は警戒感みたいな雰囲気でしたが、私の尺八で踊りだす利用者が出現。知っている曲ばかりで良かったというお年寄りもいました。利用者35人、スタッフ6人。
21	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	11月22日	1月19日 (木)14:00 ~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	毎回沢山の利用者さんがいるのでスタッフに聞いてみると、我々のボランティアの時に施設を利用する人が多いという。皆さん楽しみにされているようでした。利用者35人、スタッフ4人。
22	飛山城址公園	箏曲の演奏(4人)	10月23日	1月22日 (日)15:00 ~16:30	斎藤の趣味の仲間から、飛山城址公園で箏曲を弾きたいので相方を依頼され、一芸の実績とする。	50人位の人が集まっていました。春らしい曲でまとめた演奏にしました。依頼者側では喜ばれていたように思いました。トイレでお客様から一言いただきました。フーテンの寅さんは良かったと。
23	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八の演奏(2人)	12月14日	2月16日 (木)14:00 ~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	利用者28人、スタッフ4人。
24	鹿沼市清州第一小学校・津田小学校	学校授業でのケーナの演奏と指導(2人)	1月13日	2月17日 (金)9:00 ~15:00	グローバルグループYさんから斎藤に依頼。	午前中清州第一小、児童約30人。午後津田小、児童約60人。ボンボという太鼓などを児童が叩き、斎藤のケーナ演奏の伴奏をしたりして、大盛り上がりの授業でした。
25	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八の演奏(2人)	1月19日	3月30日 (金)14:00 ~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	始めてという利用者さん、良かったと感激され、握手の歓迎をいただきました。利用者28人、スタッフ4人。

### (3) ボランティア・NPOの研修会(イベント)の開催 (Vの啓発・普及事業/NPOの育成事業)

今年は実施しなかった。

### (4) 講師派遣事業 (Vの啓発・普及事業)

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため、本会役職員等を講師として派遣した。派遣は74回で、一昨年の77回とほぼ同じに回復した。災害ボランティアオールとちぎのメンバー自身が講座運営をできるように積極的に講師の補助員として参加した。災害系の講座や活動報告の依頼が多かった。

回	月日	講座名	主催等	場所	派遣講師	聴講概数
1	4/16	東日本大震災救援活動の講話	ロータリークラブ総会	宇都宮	矢野	200
2	4/19	国際NPO起業論①	宇大国際学部	宇都宮	矢野	8
3	4/29	トヨタウッドニューホーム防災講座	トヨタウッドニューホーム	宇都宮	矢野	10
4	4/26	国際NPO起業論②	宇都宮大学国際学部	宇都宮	矢野	5
5	5/10	国際NPO起業論③	宇都宮大学国際学部	宇都宮	矢野	5
6	5/11	シルバー大講義「ボランティアとは」	シルバー大学校(北校)	矢板	矢野	20
7	5/17	シルバー大講義「ボランティアとは」	シルバー大学校(中央校)	宇都宮	矢野	30
8	5/17	国際NPO起業論④	宇都宮大学国際学部		矢野	5
10	5/18	シルバー大講義「ボランティアとは」	シルバー大学校(南校)	栃木	矢野	25
11	5/20	シルバー大講義「ボランティアとは」	シルバー大学校(中央校)	宇都宮	矢野	30
12	5/24	東日本大震災講演	電気工事事業組合青年部	宇都宮	矢野	25
13	6/4	東日本大震災講演	大正大学同窓会	宇都宮	矢野	25

14	6/7	サバイバルネット・ライフ内部研修講師(矢野)	サバイバルネット「ライフ」	小山	矢野	10
15	6/8	宇都宮大学・地域交流センター開所シンポジウム	宇都宮大学	宇都宮	矢野	120
16	6/9	シルバー大学校南校「福祉施設実習・発表」	シルバー大学校南校	栃木	中野	25
17	6/11	おきたま地区NPOマネジメント講座	おきたまNPOセンター	山形・米沢	矢野	50
18	6/15	シルバー大学校北校「自主研究①②」	シルバー大学校北校	矢板	中野	20
19	6/16	シルバー大学校南校「自主研究①②」	シルバー大学校南校	栃木	中野	25
20	6/16	とちぎコープの総会で震災活動のスピーチ(矢野)	とちぎコープ	宇都宮	矢野	350
21	6/21	シルバー大中央校「ボランティア実習発表①②」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	20
22	6/22	シルバー大学校北校「自主研究③④」	シルバー大学校北校	矢板	中野	20
23	6/23	シルバー大学校南校「自主研究③④」	シルバー大学校南校	栃木	中野	25
24	6/23	自治公民館長向け・防災講座	日光市公民館	今市	矢野	30
25	6/24	シルバー大中央校「ボランティア実習発表①②」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
26	6/25	災害ボランティア報告会&ボラチーム設立会議	那須烏山市社協	烏山	矢野	60
27	6/28	シルバー大中央校・火コース「自主研究①②」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
28	6/29	シルバー大学校北校「自主研究⑤⑥」	シルバー大北校	矢板	中野	20
29	7/1	シルバー大中央校・金コース「自主研究①②」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
30	7/5	シルバー大中央校・火コース「自主研究③④」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
31	7/6	シルバー大学北校「自主研究⑤⑥」	シルバー大北校	矢板	中野	20
32	7/8	シルバー大中央校・金コース「自主研究③④」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
33	7/12	シルバー大学中央校・火コース「自主研究⑤⑥」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
34	7/13	シルバー大学北校「自主研究⑦⑧」	シルバー大北校	矢板	中野	20
35	7/14	シルバー大学南校「自主研究⑦⑧」	シルバー大学校南校	栃木	中野	25
36	7/15	シルバー大学中央校・金コース「自主研究⑤⑥」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
37	7/19	白鷗大学特別講義「FB、災害V、NPOについて」	白鷗大学	小山	矢野	100
38	7/19	シルバー大学中央校・火コース「自主研究⑦⑧」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
39	7/20	シルバー大学北校「自主研究⑨⑩」	シルバー大北校	矢板	中野	20
40	7/21	シルバー大学南校「自主研究⑦⑧」	シルバー大学校南校	栃木	中野	25
41	7/22	東日本大震災講演	宇都宮中央生涯学習センター	宇都宮	矢野	30
42	7/22	シルバー大学中央校・金コース「自主研究⑦⑧」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
43	7/26	シルバー大学中央校・火コース「自主研究⑨⑩」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
44	7/28	シルバー大学南校「自主研究⑨⑩」	シルバー大学校南校	栃木	中野	25
45	7/28	こぶしの会編集会議・アドバイザー	こぶしの会	上三川	矢野	5
46	7/29	シルバー大学中央校・金コース「自主研究⑨⑩」	シルバー大中央校	宇都宮	中野	30
47	8/6	災害ボランティア講演会	栃木県トラック協会宇都宮支部青年部	宇都宮	矢野	8
48	8/10	中学生ボランティアスクール「防災講座」	那須塩原市社協	西那須野	矢野	15
49	8/28	シンポジウム「災害時のソーシャルワーカーの役割」	栃木県ソーシャルワーカー協会	宇都宮	矢野	50
50	9/20	ヘルパー養成講座「ボランティア実習オリエンテーション」	介護労働安定センター	宇都宮	矢野、菊池	50
51	9/30	こぶしの会・広報誌編集会議アドバイザー	こぶしの会	上三川	矢野	5
52	10/15	「障害者と防災」シンポジウム	自立生活センター栃木	宇都宮	矢野	40
53	10/28	こぶしの会・広報誌編集会議アドバイザー	こぶしの会	上三川	矢野、石川	5
54	11/2	災害ボランティア講座①「災害図上訓練」	鹿沼市社協	鹿沼	矢野	40
55	11/5	災害ボランティア報告会	栃木市社協	栃木	矢野	60
56	11/7	女性大学「防災講座」	足利助戸公民館	足利	矢野	40
57	11/9	シルバー大講義「東日本・災害とボランティア」	栃木県総合文化センター	宇都宮	矢野	300
58	11/16	災害ボランティア講座②「避難所運営ゲーム」	鹿沼市社協	鹿沼	矢野、君島、青木、関口、柴田	40
59	11/16	シルバー大北校講座「東日本・災害とボランティア」	シルバー大北校	矢板	矢野	160
60	11/17	シルバー大南校講座(東日本・災害とボランティア)	シルバー大南校	栃木	矢野	160
61	11/18	災害ボランティア講座	佐野社協	佐野	矢野	10
62	11/21	災害ボランティア講話	栃木高校	栃木	柴田	
63	11/22	「災害時の学校」野木町教員研修	野木町教育委員会	野木	矢野	30
64	11/23	震つな 移動寺子屋事業「次の災害と広域連携」	震災がつなぐ全国ネットワーク	和歌山新宮	矢野	40
65	11/26	防災ボランティア講座①「図上訓練」	日光市・落合地区社協	日光	柴田	
66	11/27	防災ボランティア講座②「避難所運営ゲーム」	〃	〃	柴田	
67	11/28	こぶしの会・広報誌編集会議アドバイザー	こぶしの会	上三川	矢野	5
68	12/28	ヘルパー養成講座「ボランティア実習オリエンテーション」	介護労働安定センター	宇都宮	矢野、菊池	50
69	1/27	こぶしの会・広報誌編集会議アドバイザー	こぶしの会	上三川	矢野	5
70	2/11	シンポジウム「栃木の市民活動」	在宅ケアネットワーク	下野	塚本	
71	2/25	「東日本大震災・ホームレス支援」講話	円心寺	埼玉・本庄	矢野	40
72	2/27	こぶしの会・広報誌編集会議アドバイザー	こぶしの会	上三川	矢野	5
73	3/18	災害ボランティア活動報告会	壬生町社協	壬生	矢野	20
74	3/16	こぶしの会・広報誌編集会議アドバイザー	こぶしの会	上三川	矢野	5
		合計				3477

## 事業報告 B.【NPO活動推進センター】

### (1) NPOに関する相談・協働事業 (NPOの育成事業)

NGO/NPOの活動推進のため、市民活動団体と協働して講座等の企画実施、イベントの協力、検討会や研究会の設置と協力、提言書の作成、基金の預託などをおこない、他のNGO/NPO等からの相談を受け、課題の解決を図った。

本会の役割は地域の民間団体という特徴から、全国の動きを県内の市民活動団体に伝え、運動にしていくことが多くなった。また徐々にとちぎコミュニティファンドなどの枠組みで、県内のNPO支援センターとともにNPO支援を行うように変化している。

今年度は「認定NPO法人への税額控除導入」を実現するためのNPO法改正の国会ロビー活動の支援、国の新事業「新しい公共支援事業」の応募・受託、さらに「NPO法人会計基準」の普及の3つの大きな変化へ対応した。

#### ① 認定NPO法人への寄付優遇税制実現のための「NPO法改正」政策提言・ロビー活動の応援

国は、2011年1月、認定NPO制度に税額控除を取り入れる税制優遇策を打ち出し、それに伴う税制改正法案を提出する決定をした。この法案はかなりの紆余曲折があったが2011年6月25日に成立、悲願の税額控除方式が実現した。年度末から6月にかけて、このロビー活動をしている「シーズ=市民活動のための制度を作る会」からの呼びかけに応じ、本会からも国会議員会館での緊急集会に応援に行った。

5/25 衆議院第1議員会館でNPO法改正と新寄付税制の決起集会(矢野/東京)  
7/21 NPO税制改正説明会 & NPO会計基準協議会+NPO議員連盟懇親会(東京/矢野)

#### ② 「新しい公共」支援事業

2011年度から2年間の期間限定で国が「NPOへの資金循環」を目的に推進施策を実施することになった。**市民ファンドの創設・基盤強化**を含めたファンドレイジング促進のために使える**中間支援機能強化のための委託金**であるのが特徴だ。栃木県には2年間で約1億5000万円程の委託金が交付され栃木県の「新たな公の担い手支援事業」として2011年6月から公募された。

この間、新しい公共支援事業への対応では内閣府からの直接情報入手、全国のNPO支援センター間の協議、県内NPO支援センター間での協議を経て、県との対応協議までの一連の施策形成を、本会と県内NPO支援センター有志により作りあげてきた。

9月に応募4企画のうち2企画が審査を通過し、10月に**とちぎコミュニティ基金強化事業(詳細はP46)**と**認定NPO法人になろう！キャンペーン事業**の2事業を受託した。

#### ③ 「NPO法人会計基準」の普及

シーズ=市民活動の制度を作る会や、NPO法人会計基準策定協議会が中心となって全国72のNPO・市民活動支援組織とともに2年越しで作り上げてきたNPO法人会計基準が、2010年7月に策定・公表された。その後2011年6月25日の新・NPO法(NPO法改正)の成立と新・認定NPO法人制度成立により「NPO法人会計基準が」内閣府の「NPO法人設立の手引き」に正式に採用されることになった。本会は栃木県内のNPO支援センターとして協議会に参加していることから職員を派遣し、情報交換はNPO法人会計基準の県内への普及を図った。

#### ④ NPOの相談

NPO法人等からの相談を受け、法人設立、後継者問題、マネジメントなどのアドバイスなどを行った。5件の相談に対応した。

(NPO相談)



- 茨城NPOセンター・コモンズ災害救援部門「HOPE茨城」立上の応援(2回・水戸/矢野、青木V、柴田V)
- 千葉ふなVネット災害のNPOを法人化したい(矢野)
- サバイバルネットライフ、認定NPO後の領収書の作成・管理について(斎藤)
- 高齢者デイホーム、代表の高齢化にともなう2代目問題。後継者がいない、だれかに譲りたい。(矢野)
- (NPO法改正等の全国の動きへの対応) ○6/7 NPO支援センターCEO会議「東日本震災について」(矢野/東京)
- 12/2NPO支援センターCEO会議「新しい公共支援事業について」(矢野/東京)

## ⑤委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。前期から会議を少なくし、また震災の影響で会議が少なくなった。

- 11/30(水)宇都宮中央生涯学習センターで「宇都宮市民大学」講座審査会(矢野)

## ⑥その他NPOとの協働

県内のNPOが行う行事・事業等に参加し、会議等を行った。

- 9/19 真岡西部クリニック主催講座「放射能から子どもたちを守るために」(講座の応援) ○7/1 生協連会議(市内/徳山) ○8/9 ぼぼら会議& P S C講座 ○10/1 木沢棚田オーナー制の田んぼ稲刈り(矢野・菊池・徳山・青木)

## (2) NPO・ボランティアの研修事業 (NPOの育成事業)

新しい公共支援事業(栃木県「新しい公の担い手育成事業」)の関係で2つの事業を企画提案し受託した。なお、「とちぎコミュニティ基金強化事業」はP46で述べる。「認定NPO法人を目指す団体」を応援することで、自ずと「優れたNPO」を応援することになった。

### ①認定NPO法人になろう！キャンペーン事業

認定NPO法人制度が大幅に改正され、従来の「相対基準」に加えて、3000円×100人の寄付者が2年間あれば認定を取得できる「絶対値基準」が加わった。また2012年4月からは仮認定NPO制度も導入される。他に認定NPO法人への寄付者の税制優遇も税額控除方式が導入された。

こうした認定NPO法人の制度の理解・普及を一般に行なうことと、認定を取得したいNPO法人を募り、NPO法人→仮認定NPO→本認定NPOへと進むため、「1団体年間100人の寄付者」を集めることを目標にキャンペーンを行う。複数のNPO法人が認定NPO法人化にむけた共同行動を行うことで「新しい公共」と寄付行動の意義を深め、NPO法人と市民の結びつきを強める啓発普及の運動を行なった。

上記の目的を企画にし、県の「新たな公の担い手育成事業」に応募、受託した。10月からNPOの募集を開始した。11月に「新・認定NPO法人制度&新・寄付税制学習会・キャンペーン説明会」を行い、その後、毎月「内部研修会」をおこない各団体のアンドレイザーの育成をして行った。3月には信託銀行の講師を招き「信託会社を活用したファンドレイジング」についての公開講座を行った。また、次期5月に行われる「寄付ハイク」の準備をした。

#### ■応募企画概要

認定NPO法人になろう！キャンペーン (事業期間：2011年度～2012年度)	
目的	認定NPO法人制度が大幅に改正された。従来の総収入の10%が寄付金という「相対基準」に加えて、3000円×100人の寄付者が2年間あれば認定を取得できる「絶対値基準」が加わった。また2012年4月からは仮認定NPO制度も導入される。他に認定NPO法人への寄付者の税制優遇も税額控除方式が導入された。こうした認定NPO法人の制度の理解・普及を一般に行なうことと、認定を取得したいNPO法人を募り、NPO法人→仮認定NPO→本認定NPOへと進むため、「1団体年間100人の寄付者」を集めることを目標にキャンペーンを行う。複数のNPO法人が認定NPO法人化にむけた共同行動を行うことで「新しい公共」と寄付行動の意義を深め、NPO法人と市民の結びつきを強める啓発普及の運動を行なう。
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、改正認定NPO法人制度についての講座(一般向け、随時)</li> <li>2、参加団体の募集：認定NPOを取得したい団体の募集とファンドレイザーの確定。ファンドレイザーへの人件費等経費を補助する。(1団体1人、月4万円程度)</li> <li>3、内部研修：ファンドレイザー向けの認定NPO法人制度の講座、ファンドレイジングの基礎講座</li> <li>4、内部研修：各団体の認定NPO取得の計画作りと準備(募集ツールの作成)</li> <li>5、ファンドレイジングの実施：各団体ごとの寄付者の獲得と共同行動(キャンペーン)の実施。キャンペーン全体の広報手段として、講座、イベント、ポスター、ホームページ、マスコミ等を想定。</li> <li>6、「認定NPO法人になろう！キャンペーン」参加団体には新聞紙面買い取りなどの方法で広報をする。</li> </ol>

キャンペーン参加NPO	1 NPO法人もうひとつの美術館	2 NPO法人チャレンジド・コミュニティ	3 NPO法人宇都宮まちづくり市民工房
	4 NPO法人蔵のまたたんぼの会	5 NPO法人トチギ環境未来基地	6 NPO法人自由空間ポー
	7 NPO法人だじょうぶ	8 NPO法人チャイルドラインとちぎ	9 NPO法人まごの手
	10 NPO法人栃木おやこ劇場	11 認定NPO法人青少年の自立を支える会	12 認定NPO法人ウィメンズハウスとちぎ
	13 認定NPO法人サバイバルネットライフ		
(■オブザーバー参加は①うりずん(任意団体でNPO法人化準備中。次年度正式参加予定) ②NPO法人ま・わ・た)			

■新・認定NPO法人制度 & 新・寄付税制学習会・キャンペーン説明会

日時・主催	NPO寄付元年！[新・寄付優遇税制]と[新・認定NPO法人制度]を使いこなす学習会 & 認定NPO法人になろう！キャンペーン説明会	参加
10/28(金) 13時～16時 とちぎ青少年センター  主催：本会＋中央ろうきん社会貢献基金	<p>(主旨) 6月からNPO法人に対する寄付の優遇税制が大幅に変わり、「寄付した人への優遇措置」が拡充されました。しかし、この優遇税制を受けるためには認定NPO法人(認定特定非営利活動法人)にならなければなりません。これまではこのハードルが非常に高くほとんどのNPO法人が諦めていましたが、この改正で認定NPO法人制度も大幅に緩和され「3000円の寄付者が100人いれば2年間で認定NPOになれる」ようになりました。さらに来年4月からは、2年間だけ認定NPO法人と同等の寄付控除ができる「仮認定NPO法人制度」も施行されます。 ●この講座では新寄付税制と新認定NPO法人制度について分かりやすくお伝えするとともに、本会がこれから行う「認定NPO法人になろう！キャンペーン」の説明会を実施します。</p> <p><b>第1部●「NPO寄付元年！一新寄付税制と認定NPO法人制度学習会」</b> ●講師/関口宏聡さん(シーズ=市民活動を支える制度をつくる会) 1999年のNPO法の成立から今回のNPO制度の大改正、寄付税制の成立もシーズのロビー活動がなければできなかった！NPO法制度の立役者であるシーズから講師を招き講座を行います。</p> <p><b>第2部●「認定NPO法人になろう！キャンペーン」説明会(15:00-16:00)</b> 本会が栃木県から受託・実施する「認定NPO法人になろう！キャンペーン」の説明会です。同キャンペーンは、認定NPO法人になろうとする団体から1名ずつファンドレイザーを募り、月1回の内部・外部研修を実施し、仮認定期間内に認定NPO法人になることにチャレンジする共同プログラムです。新聞紙面買い取りなどの方法で広報を行い、県民に対して認定NPO法人の認知も広げます。 説明/矢野正広(本会事務局長)</p>	35人

■内部研修・概要

回	日時/会場	内容	参加
1	2011年11月27日(日) 13時30分～17時 会場：本会事務所・3階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各団体の紹介(事業、財務内容、組織)60分</li> <li>●講義I「ファンドレイジングの基礎」40分 講師：矢野正広(本会職員)</li> <li>●講義II「ファンドレイジングの実務」40分、講師：高橋郁(鈴木郁)</li> <li>●質疑応答、今後の予定 30分</li> </ul>	22人 17団体
2	2012年1月21日(土) 13時～16時30分 会場：本会事務所・3階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義「ファンドレイジングの実務」60分 講師：高橋郁</li> <li>●演習「ミッションステートメント(社会的使命の宣言・声明)づくり」120分 講師：矢野正広(本会職員)</li> </ul>	24人 13団体
3	2月18日(土) 13時～16時 会場：本会事務所・1階	<ul style="list-style-type: none"> <li>●報告会「ファンドレイジング研修・大会」45分 報告者：矢野正広、安藤芳樹、土崎雄祐、大木本舞、本郷秀崇</li> <li>●講義「中長期計画の立て方とファンドレイジング」40分 講師：矢野正広(本会職員)</li> <li>●事例検討会 60分 ①NPO法人自由空間ポー②NPO法人ま・わ・たの個別のファンドレイジングの方針や企画案を発表、検討。</li> <li>●報告・連絡 30分 「仮認定NPO法人制度の動向」、「今後の事業について」</li> </ul>	22人 14団体
4	2月18日(土)13時～16時30分 会場：本会事務所・3階会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義「信託銀行を活用したファンドレイジング」120分 講師：合田政生(三井信託銀行●職員)</li> <li>●事例検討会 30分 ①NPO法人まごの手のファンドレイジング企画案を発表、検討</li> <li>●連絡・協議 30分 ①仮認定NPO法人制度の予定…県担当者、「合同寄付キャンペーン・寄付ハイクについて」</li> </ul>	25人 20団体

**(3) NPOに対する事務所スペースの貸出、備品・機器貸出事業(NPOの育成事業)**

事務所を置く余裕のないNPOに対し、机1つ分のスペースを貸出し、活動拠点の応援をした。またコピー機・輪転機・紙折り機等の貸出をおこないNPOへの便宜を図った。

県内には公設民営のNPO支援センターが数多く存在するが、これまでは本会以外には事務所機能持つインキュベーション施設はなかった。(今年度から宇都宮市「まちぴあ」が実施) その意味で本会が13年間独自におこなってきた重要な市民活動団体支援策のひとつといえる。

■貸出・利用備品：輪転印刷機(有料)、紙折り機、ビデオプロジェクター、パソコンプロジェクター

事務所スペース貸出(1団体) …地域センター栃木	連絡所設置(1団体) …N ウィメンズハウスとちぎ
会議場利用(4回) …あしなが育英会4	備品利用・貸出(約10回) ……シャプラニールとちぎ架け橋の会、オオタカ保護基金など

## (4) コーヒーサロン事業 (NPOの育成事業)

県内のNPO、ボランティアのリーダーを招き、顔の見えるネットワーク作りと他分野の団体の活動紹介をすることで、県内の市民活動の活動推進を図った。身近なスゴイ人・面白い人を紹介するいわば「耳学問の場」である。今年度は3回のサロンを行った。またサロンの内容は「月刊ボランティア情報」紙上に掲載した。

日時	講義名・内容	話し手	参加数	掲載号
10/6	路上の生活困窮者支援	今藤 雄 ワンファミリー仙台	5人	186号
12/8	「ひだまり」の1年	畠山由美「Your Place ひだまり」	8人	189号
3/16	変わる社会的養護	福田雅章・児童養護施設「養徳園」園長	15人	191号

## 事業報告 C. 【若者自立支援】

### (1) とちぎ若者サポートステーション事業 (若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援)

「地域若者サポートステーション」とは、厚生労働省キャリア形成支援室が所管する若年無業者の支援機関である。ニートと称される仕事に就かず、教育訓練や就業訓練をしない若者は、現在全国で84万人(内閣府調査)に上り、社会的な問題と懸念されている。厚生労働省は平成2006年に、若年無業者支援の地域の核として「地域若者サポートステーション」(以降“サポステ”と略して明記)を同じく全国25か所に設置した。その後2007年以降年々増加し、今年度(2012年度)には全国116か所に設置されている。現代の経済不況化にあって国がこれだけ予算措置をして設置を増やしていったのも、サポステの必要性とその成果に期待されていることが考えられる。

#### とちぎサポステの柱：①相談事業

とちぎ若者サポートステーション(通称“とちぎサポステ”)は2007年5月厚生労働省から本会が受託した。相談業務には、キャリア相談(キャリアコンサルタントによる就労を前提とする相談)、心理相談(臨床心理士による心理的な相談)、訪問相談(とちぎサポステスタッフによる家庭訪問)、スタッフ相談(多様な問題に対応する相談)、電話・メール相談の5つを軸にして一日平均して23人前後の相談に当たっている。

■(表1) とちぎ若者サポートステーション2011年度(平成23年度)利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	26	16	13	11	8	6	12	13	9	17	9	19	159
面談	135	147	173	150	151	143	174	172	130	127	138	137	1,777
キャリア	22	18	22	25	19	25	15	17	19	26	29	31	268
心理	3	5	3	2	5	8	9	9	8	13	8	7	80
訪問	3	35	36	27	25	37	62	38	38	30	29	30	390
電話・メール	212	414	380	346	391	357	373	370	339	365	363	357	4,267
セミナー・イベント等	91	172	198	220	180	197	194	216	223	217	246	246	2,400
合計	492	807	825	781	779	773	839	835	766	795	822	827	9,341

表1にあるように、当期はのべ9341人の若者に対応している。新規登録者は159人で1か月平均13.2人となる。新たに登録する若者が後を絶えないのは、それだけ若者が就労や自立に向けて悩みを抱えていることを示している。電話やメールを入れた相談まで含めると9341人の内72%になる6941人が継続して相談している。学校のことならまだしも、自立や就労に関して親や友人に相談することができず、悩んでいる実態が

明らかになっている。

また、昨年度と比べると新規登録者が減少しているにも関わらず、スタッフ面談は年間で 440 人も増えている (表 1)。「キャリア相談にも心理相談にもつながらない若者が多く存在する」こと、「スタッフ面談が 5 年連続して増加している」ことについて、2007 年の開設以来一貫してとちぎサポステが国に対して訴え続けている。厚生労働省の「サポステ」の定義は「若年無業者を相談や講座を通じて社会的自立をさせること」にある。そのため、心理相談では就労につながらないとわかると 2008 年度からは臨床心理士の予算を認めなかった。また、近年、キャリア相談にはその中にジョブカード講習修了者 (ハローワークの就労支援策の一つ) がいることを必然とした。つまり、就労につながるために資格や制度で固め、若年無業者の就労を中心とした社会的自立に向かうための「サポステ」としている。しかし、現場は全く異なることがこの表からも明らかとなっている。

### とちぎサポステの柱：②講座・セミナー・イベント、居場所プログラム

サポステのもう一つの事業は自立や就労に向かうための講座やセミナー、イベント、そして訓練等がある。相談と並行しながら、イベントや講座への参加で職業意欲の醸成、対人不安の解消、コミュニケーション力の向上などを目指している。表 2 のように、動き出した若者が自分に合った内容の講座やプラスになると思うセミナーなどを多様に用意することで、若者たちの動き出しはよりスムーズになり、また一歩ずつだが向上していける。

■ (表 2) セミナー・イベント参加者人数 (延べ)

セミナー内容	日時	参加人数	対応者
PC 講座	毎週水曜日 10:30~12:00	208 人	石川 V
就活講座	毎週木曜日 14:00~16:00	255 人	若林、坂本
学習支援 (高認支援)	毎週月曜夜、木曜日午後	812 人	中野
就業トレーニング	毎週水曜日 9:30~10:30	72 人	塚本
S S T	隔週火曜日 13:30~15:00	108 人	中島、坂本

居場所関係	日時	参加人数	対応者
ちょべり場	月 1 回土曜日 13:30~15:30	152 人	山尾、中島
bふらっと	毎週金曜日 15:00~19:00	33 人	早川 Y A、青木
月の庭 (女性の居場所)	月 2 回土曜日 13:30~15:30	86 人	早川 Y A
ぴっとーれ (イラスト描き)	月 1 回土曜日 13:30~15:30	55 人	中島
心と体のセルフケア	月 1 回火曜日 10:30~13:00	33 人	坂主 Y A

※Vはボランティア、YAはとちぎユースアドバイザーの略

- ① PC 講座…パソコンの打ち方から始めている基礎のパソコン講座。通常のパソコンスクールと異なり、個別対応の指導で一歩ずつ学べるのが特徴
- ② 就活講座…サポステのキャリアコンサルタントが担当している講座。働き続けるための講座であったり、電話のかけ方からビジネスマナーまで学べる。
- ③ 学習支援…高校在学中の補習や高校中退者向けの高卒認定取得支援、短大や大学の受験支援、そして資格取得支援など若者が望む学習の支援
- ④ 就業トレーニング…まだ対人関係が難しかったり何ができるかわからない若者が自分にできる仕事や自分に合った業務をみつめるために行うトレーニング
- ⑤ S S T (ソーシャルスキルトレーニング) …コミュニケーションのためのグループカウンセリングで、サポステの臨床心理士が担当している。

- ⑥ ちょべり場…同年代の人たちの居場所であり、友達作りや興味の合った人同士で話せる場として機能している。作新大学人間心理学部の准教授が担当している。
- ⑦ ふらっと…毎週金曜日の午後、V ネットの 3 階「You ネット」を開放し、物理的にも出入り自由な居場所として多くの若者が参加している。ユースアドバイザーが担当。
- ⑧ 月の庭…女性だけの居場所で「サロン・月の庭」として毎月 2 回隔週の土曜日に V ネット 3 階の YOU ネットで実施している。
- ⑨ ぴっとーれ…ピットーレはイタリア語で絵描きさんのこと。イラストやマンガを描くのが好きな方が一緒に集まって、みんなで絵を描きながら交流を深めている。
- ⑩ 心と体のセルフケア…料理の得意なユースアドバイザーの方が若者と一緒に昼食を作りながら身体と食事の関係から食の大切さを伝えていくプログラム。

当期は、サポステスタッフだけでなく、ボランティア(V)、ユースアドバイザー(YA)の方も数多く対応していただいた。2010 年度から開始したユースアドバイザー企画の 3 つのプログラムも、今では毎回多くの若者が楽しみに参加している。ボランティアとユースアドバイザーの若者への関わりは、スタッフからの一元的

な観点に留まらず、多面的な支援を可能としている。表1にあるようにスタッフ面談が増えればその受け皿としてセミナーやイベント、居場所は必然的なものとなる。そこにスタッフとボランティアとユースアドバイザーが複合的に関わる形は他のサポステには見られない大きな特長といえる。

### とちぎサポステの柱：③ネットワーク構築と連携

サポステが開所して5年が経ち、行政をはじめ福祉機関や医療機関、そして就労機関や教育機関など、困難を抱える若者との関わりを持つ現場にもサポステが広く周知されるようになってきた。事実、多機関からの紹介で訪れる若者も年々増加し、それぞれの現場との連携は必須のものになってきている。支援内容を限定せずに臨機応変に対応していくあり方がサポステの特徴でもあるが、その反面「専門性の弱さ」が課題でもある。故に専門機関との連携によりそれぞれの役割の住み分けを確認し、一人の若者を多方面から支えることでより強固な支援のベースを構築していくようになった。

表3は、当期に施行された若者支援に関わりを持つ他機関との外部会議、及び講話や講座の内容である。若者が抱える問題に即して、あらゆる機関とのネットワークを構築していったこと。

■(表3) サポステで平成23年度に実施、または参加した会議

月	内部会議	外部会議	主催事業・トピックス
4月	○4/16 SS 全体会議 (SS スタッフ 14名) ○4/16 YA 会議 (第1期・第2期生 13人) ○4/29 SS スタッフ 会議	○4/12, 19 県労政課と協議 (中野) ○4/14 福祉事業団の田中さんと打ち合わせ (中野) ○4/14 宇都宮高校の教頭と打ち合わせ (中野) ○4/19 チャレンジドコミュニティの佐藤さんと打ち合わせ (中野) ○4/26 市の生保担当者に相談 (中野) ○4/28 栃木市トータルサポートセンターの生保担当と打合せ (中野) ○4/28 学悠館高校の大賀先生、大塚先生と打ち合わせ (中野) ○4/26 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (中野・坂本) ○4/28 宇都宮商業高校定時制でキャリア講話	○第3期 YA 要請講座の現場研修実施 ○今年度から、しごとやスタッフの隅さんがサポステに出向となる
5月	○5/21 SS 会議 (SS スタッフ、隅) ○5/17, 24, 31 SS スタッフ 会議 (中野、坂本、中島、塚本)	○5/1 とちぎ教育ネットワーク定例会 (中野) ○5/9 カレッジ会議 (中野) ○5/9 若者サポートネットワーク会議 (塚本) ○5/18 県経営支援課と協議 (中野) ○5/18 とちぎ環境未来基地会議 (中野) ○5/19 高認プロジェクト会議 (中野) ○5/24 宇都宮市教育委員会生涯学習課と協議 (中野) ○5/26 森病院にてケース会議 (塚本) ○5/25 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (中野・坂本)	○5/28 第3期 YA 修了式 (参加者 13名、矢野、中野、塚本) ○ヤングスポーツフェスティバル開催 (カレッジ主催)
6月	○6/26 SS 会議 (SS スタッフ、隅) ○6/7, 14, 21, 28 SS スタッフ 会議 (中野、坂本、中島、塚本)	○6/1 県南 SS 会議 (中野) ○6/2 栃木県労働局職業安定課で協議 (中野) ○6/2 宇都宮市生保課で打合せ (中野) ○6/2 宇都宮市子ども部次長と打合せ (中野) ○6/7 高根沢町総務課と打合せ (中野) ○6/10 宇都宮市青少年自立援助センター所長と協議 (中野) ○6/10 高根沢町社協、総務課等と打ち合わせ会議 (中野) ○6/12 NPO とちぎ教育ネットワーク総会に参加 (中野) ○6/18 県北サポステと打ち合わせ (中野) ○6/18 ワカモノフェスタ実行委員会に出席 (中野) ○6/20 キャリアコンサルタント研修会 (塚本) ○6/20 若者サポートネットワーク会議 (塚本) ○6/23 栃木県発達障害者支援センター連絡協議会 (中野) ○6/25 栃木県人権研究会にパネリストとして参加 (中野) ○6/30 全国 S S 総括コーディネーター会議 (中野) ○6/28 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (坂本)	
7月	○7/16 SS 会議 (サポステスタッフ、清野) ○7/5, 12, 19, 26 SS スタッフ 会議 (中野・中島、坂本・塚本)	○7/1 「星の家」の星さんご夫婦と話し合い (中野) ○7/7 「しごとや」報告会に出席 (中野、塚本) ○7/8 障害者職業センター説明会 ○7/13, 22, 29 ユースワークカレッジ会議 ○7/14 高認支援会議 (中野) ○7/15 マネー活用講座 (講師：(株)プロミス) ○7/16～7/17 「困難を有する子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」に講師として出席 ○7/19 オリオン通り曲師町農産物直売所会議 (中野) ○7/21 CCV ウェルフェア打合せ (坂本、塚本) ○7/24 ワカモノフェスタ実行委員会 (中野) ○7/26 雇用能力開発機構で大島さんと打合せ (中野) ○7/27 「ふらっぶ」打合せ (中野) ○7/28 県経営支援課と打合せ (中野) ○7/22 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (坂本)	○7/24 高認支援プロジェクト受験直前集中講義 (中野) ○7/31 高認支援プロジェクト直前模試試験 (中野) ○7/25～29 内閣府主催「アウトリーチ研修会」に坂本さんが参加する (坂本)
8月	○8/20 SS 会議 (サポステスタッフ、隅、清野)	○8/2 宇都宮商業高校の教頭先生と話し合い (中野) ○8/5 社会教育力会議 (中野) ○8/5 雇用能力開発機構打合せ (中野) ○8/10 「ふらっぶ」打合せ (中野) ○8/11 県労働政策課と協議 (中野) ○8/11 精神保健福祉センターフェスティバルに参加 (塚本) ○8/11 ゲートキーパー養成講座の打合せ (中野) ○8/18 県経営支援課と協議 (中野) ○8/25 宇都宮市生涯学習センターと打合せ (中野) ○8/26 栃木県若者自立支援ネットワーク会議に出席 (中野、坂本、塚本) ○8/30 反貧困の原田さんと打合せ (中野) ○8/30 「星の家」にてケース会議 (中野) ○8/24 宇都宮少年鑑別所での講話 (坂本) ○8/31 宇都宮市「若者が輝く講座」講師 (坂本)	○8/1 特別支援教育研修講座 (中野・坂本) ○8/1 「不登校とひきこもりと発達障害」講演 (中野) ○8/28 高根沢町エコフェスタに参加 (中野) ○8/23-24 長野県企画部の2名の方が、栃木県視察のために来県される。
9月	○9/10 SS 会議 (SS スタッフ、隅、塚本)	○9/1 チャレンジドの金井理事長と打合せ (中野) ○9/2 高根沢町社協と打合せ (中野) ○9/2 高根沢町長、副町長と協議 (中野) ○9/2, 26 産直屋会議 (中野) ○9/7 雇用能力開発機構と打合せ (中野) ○9/8 足利市企業振興課と打合せ (中野) ○9/10 長野県伊奈市「困難を有する子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」 (中野) ○9/12 ウイ	○9/8 足利市就労支援事業「履歴書セミナー」 (半田、中野) ○9/18 摂食障害フォーラム参加 (塚本) ○9/18 摂食障害フォーラム参加 (塚本)

		メンズに DV 支援打合せ (隅、塚本) ○9/13 とちぎユースワークカレッジ会議 (中野) ○9/14 精神保健福祉センター「家族教室」(塚本) ○9/17 中央警察署で DV 被害者の事情説明 (隅、塚本) ○9/20 都賀町子ども会の田中さんと打合せ (中野) ○9/20 反貧困ネットワーク会議に参加 (中野) ○9/21 高認支援プロジェクト会議 (中野) ○9/27 県経営支援課と協議 (中野) ○9/27 3 センター研修会 (中野、塚本) ○9/30 佐賀「スチューデント・サポート・フェイス」の谷口さんと打合せ (中野) ○9/21 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (中野、塚本)	○9/5~17 坂本さんが、佐賀市「スチューデント・サポート・フェイス」に2週間の研修に行く○9/26 学習支援の場所を、テーシビルから You ネットに移動する。
10月	○10/4,11 SS スタッフ会議 (中野、坂本、中島、塚本)	○10/2 産直屋会議 (中野) ○10/4,18 カレッジ会議 (中野) ○10/5 県南サポステ会議 (中野) ○10/5 生保のケースワーカーとケース会議 (中野) ○10/6,12,25,27 県経営支援課と協議 (中野) ○10/7 S S マナー講座 (中野) ○10/12 とちぎ教育の日の打合せ (中野) ○10/17 労働局・ジョブカフェ・サポステ合同会議 (中野) ○10/17 チャレンジドコミュニティの関口さんと打合せ (塚本) ○10/17 県西健康福祉センターの菊池さんと打合せ (塚本) ○10/18,25 ハローワーク会議 (中野、塚本) ○10/19 プロミスと打合せ (中野) ○10/19 高認支援会議 (中野) ○10/20 労働局と協議 (中野) ○10/25 定着・就ボツ・サポステの3センター会議 (中野、塚本) ○10/26 NTT と打合せ (中野) ○10/28 ハローワークにてケース会議 (塚本) ○10/29 ワカモノフェスタ実行委員会 (中野) ○10/31 とちぎ環境未来基地のパンパー委員会 (中野) ○10/31 反貧困ネットとちぎ定例会 (中野) ○10/29 T B C スキャットキャリア講座 (坂本)	○10/22 とちぎユースワークカレッジ3周年シンポジウム (中野、塚本) ○10/16 ボラ情報「気になるこの人」の取材—大田原市のハイブリッド山田道場太田ご夫妻 (中野) ○10/23 美里学園祭の焼きそば販売にサポステの若者も参加 ○10/26 読売新聞の取材を受ける ○10/12,19 T B C スキャットキャリア講座 (坂本) ○10/19 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (中野、塚本) ○10/26 ふらっぶ主催キャリア講座 (坂本) ○10/29 ゲートキーパー養成講座 (中野)
11月	○11/12 SS 会議 (半田、石田、星野、黒田、隅、中野、坂本、塚本) ○11/1,8,15,22 SS スタッフ会議 (中野、坂本、中島、塚本)	○11/2 宇都宮市生活保護ケースワーカーと協議 (中野) ○11/2 宇都宮工業高校定時制課と協議 (中野) ○11/2 足利市企業振興課と協議 (中野) ○11/7 宮っ子育て協議会 (中野) ○11/9 県労政課と協議 ○11/12 ワカモノフェスタ実行委員会 ○11/14 とちぎ教育ネットワーク会議 (中野) ○11/15 県経営支援課と協議 (中野) ○11/16 障害者就業・生活支援センターの瓜生さんと協議 (中野) ○11/18 障害者職業センターに同行 (坂本) ○11/21 県総合政策課の荒井さんと協議 (中野) ○11/22 定着、就ぼつ、サポステの3センター研修会 (中野、塚本) ○11/24 宇都宮少年鑑別所の遠藤さんと協議 (中野) ○11/24 とちぎ青少年自立援助センターの榎本さんと打合せ (中野) ○11/26 ワカモノフェスタ実行委員会 (中野) ○11/29 クロネコヤマト若草店で打合せ (中野) ○11/29 子ども・若者育成支援のための中央研修会 (塚本) ○11/30 宇都宮大学の梅永教授と打合せ (中野) ○11/30 反貧困ネットワーク会議 (中野) ○11/6 学習塾経営者に若者支援の説明 (中野) ○11/7 県西健康保健福祉センター主催「家族教室」にて講話 (塚本) ○11/16 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (中野、塚本) ○11/8 作新大学でのキャリア講話に同行 (坂本)	○11/30 ヤングスポーツフェスティバル開催 (中野、早川、坂本) ○11/3 「とちぎ教育の日」に参加 (中野) ○11/6 高認支援模擬試験 (中野)
12月	○12/10 SS 会議 (安永、半田、石田、星野、黒田、若林、中野、坂本、塚本) ○12/6,13,20,27 SS スタッフ会議 (中野、坂本、中島、塚本)	○12/1 県経営支援課と協議 (中野) ○12/1 県くらし安全課と協議 (中野) ○12/2 ハローワークとの会議 (中野、塚本) ○12/2 プロミスとの打合せ (中野) ○12/3 西那須野の建設会社社長と打合せ (中野) ○12/4 とちぎ教育ネットワーク定例会に参加 (中野) ○12/6,20 ユースワークカレッジ会議に参加 (中野) ○12/6 ヘイコーパック鈴木社長と打合せ (中野) ○12/14 宇都宮市生活保護課にて話し合い (塚本) ○12/15 鈴亀不動産と打合せ (中野) ○12/16 ユースワークカレッジ理事会に出席 (中野) ○12/22 内閣府主催地域ネットワーク会議に出席 (中野) ○12/28 西根さんと打合せ (中野) ○12/29 倫理研究所の恩田さくら会長と打合せ (中野) ○12/3 都賀町子どもを支える会で講話 (中野) ○12/8 矢板市立泉中学校で講話 (中野) ○12/14 ふらっぶ主催のキャリア講座にて講話 (坂本) ○12/21 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (坂本)	○12/2 「気になるこの人」の取材 (西根さん) (中野) ○12/23 反貧困ネットワークの「年越し電話相談」に参加 (中野) ○12/4 ワカモノフェスタ2011開催 (中野、早川、中島、塚本) ○12/16 プロミス主催「お金マイスター」講座開催 (中野、坂本) ○12/23 高認支援プロジェクトの修了式開催 (中野、中島) ○12/28 産直屋年越し感謝祭開催 (トン汁サービス) (中野、高木)
1月	○1/14 SS 会議 (安永、石田、星野、黒田、若林、中野、坂本、塚本)	○1/10,16,19 県労政課と協議 (中野) ○1/10 青少年自立援助センターの榎本センター長と協議 (中野) ○1/11 新卒応援ハローワークとの会議 (中野、塚本) ○1/12 宇都宮高校教務主任と協議 (中野) ○1/13 世界平和研究所の近藤さんと打合せ (中野) ○1/13 宇都宮護観察所の山川さんと打合せ (中野) ○1/16 ジョブモール会議 (中野) ○1/18 カレッジ会議 (中野) ○1/18 高認支援会議 (中野) ○1/19,31 栃木市役所にてケース会議 (坂本) ○1/24 皆藤病院の担当医と協議 (中野) ○1/11 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (中野、塚本) ○1/13 北高根沢中学にてキャリア教育 (中野、塚本) ○1/21 困難を抱える子ども・若者を支える講演会 (中野) ○1/26 社会教育実践研究にて発表 (中野) ○1/28 とちぎ発達障害研究会で実践報告 (中野)	
2月	○2/18 SS 会議 (安永、石田、星野、黒田、半田、中野、坂本、塚本)	○2/1 県南サポステ会議 (中野) ○2/2 県労働政策課と協議 (中野) ○2/10 “ふらっぶ”塚田所長と協議 (中野) ○2/14 更正施設尚徳会館宮澤施設長と打合せ (中野) ○2/15 宇都宮大学で発達障害会議に参加 (中野) ○2/10,15,19 産直屋会議に参加 (中野) ○2/16 小山高専の先生と協議 (中野) ○2/19 カレッジ会議 (中野) ○2/19 「心の探検」実行委員会に参加	)

		(中野) ○2/22 ハローワーク会議 (中野、塚本) ○2/22 更正施設尚徳会館宮澤施設長と協議 (中野) ○2/23 県発達障害連絡協議会に参加 (中野) ○2/28 皆藤病院の担当医と打合せ (中野) ○2/28 足利市企業振興課との打合せ (中野) ○2/3 阿久津中学キャリア教育講話 (中野、坂本) ○2/11 宇都宮南生涯学習センターにて講話 (中野) ○2/13 長野県発達障害支援者育成事業にて講演 (中野) ○2/16 太田市木崎中にてキャリア講話 (中野、坂本) ○2/22 宇都宮少年鑑別所にてキャリア講話 (中野、坂本)	
3月	○3/10 SS 会議 (安永、石田、星野、黒田、半田、中野、坂本、塚本)	○3/15 プラットホーム会議 (中野、塚本) ○3/24 若者自立支援会議 (塚本) ○3/7 宇都宮少年鑑別所にて講話 (中野、坂本) ○3/9 足利短大にてキャリア講座 (中野、坂本) ○3/12, 19, 26 「しごとれ」講座 (坂本) ○3/24 こころの探検カレッジにて講話 (中野、塚本)	○3/17 サポステ移転のための引越し作業○3/21 新サポステが開所/ジョブモール内にサポステサテライト設置

### 「若者支援の今後の在り方」

現在、若年無業者は全国で 64 万人、栃木県内でも 8100 人いると公表されている。しかしこの数字はこの数年大きく変化はない。つまり、様々な若者支援で就労する者もいる一方で、毎年ほぼ同数のニートを含む若年無業者が生まれている。その理由としては 2 つ考えられる。

まず、現在の社会就労情勢がある。2012 年 4 月の栃木県の有効求人倍率は 0.79 倍。つまり 10 人に 8 人しか就労できない現実がある。企業や工場、店舗の求人とは、「即戦力・経験者・有資格者・そして前職の評価の高い者」である。この中に就職経験のない若者やブランクのある若者は含まれていない。ということは、サポステが対応する若年無業者は、社会が求めているという事実を見過ごしていけない。若者たちは働きたい、でも彼らを求める求人はない。この求職と求人のミスマッチが解消されない限り、若年無業者の総数が大きく変化することはあり得ない。自動車産業や家電業界は軒並み海外に工場を設置し地域工場が閉鎖していった。産業界は自社の人件費を下げ運営の安定は図れるかもしれないが、それは国内の雇用を根こそぎ奪ってしまったことに他ならない。こういった社会状況の中、働きたいけど働けない若者はますます増えていくしかない。厚生労働省が毎年サポステに 3 割の就労率を求めていることが現実的でないことがわかる。

もう一つは**グレーゾーンの若者**の増加である。もう 10 年前の調査になるが、「世界メンタル・ヘルス日本サーベイ 2002-2003 からの予備調査結果」からの報告を見ると、過去一年間に、1000 万人以上の人々が精神疾患に罹患し、うつ病は 380 万人以上が罹患していることになる。しかし 280 万人のうつ病の人が、いまだ、どこの医療機関にも通院されていないことからおよそ精神疾患の 7 割の方が通院されていない、いわゆるグレーゾーンとなる。近年では注目されている発達障害も様々な調査が行われている。2010 年の文科省『全国学力・学習状況調査』から都道府県が推計した発達障害者の割合から類推すると全体の 2.1%、人口に直すと 240 万人が該当することになる。また文部科学省が 2002 年に実施した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」の結果からは、全体の 6.3%に発達障害の疑いがあることから類推するとやはり、グレーゾーンは前述の 3 倍の数字になることが明らかになる。このことから精神疾患や発達障害として認知されていない方は約 3 倍に及ぶことがわかってくる。これらのことを総合すると 10 人に 1 人は精神疾患または発達障害のグレーゾーンだということになる。

**精神疾患や発達障害**のグレーゾーンの人は、「まさに疾患」と見える人から「健康そのもの」に見える人で幅広い。見かけだけで判断できず、本人のこだわりや不安な部分、落ち込む原因であったり感情のコントロールなど、人によって様々で対応も個別にならざるを得ない。V ネットにくる SOS の対応にほぼ等しく個別具体的な支援が唯一の道となる。それだけ多くなっているグレーゾーンの若者に、厚生労働省が目的とする一般就労 (1 日 8 時間×週 5 日) はほぼ不可能に近いといっても過言ではない。つまり、国がサポステに求めている結果と、実際に現場に来る若者とでは大きく乖離していることが社会情勢とグレーゾーンの存在で明らかだ。だからこそサポステに来る若者を丁寧に対応すれば自ずとキャリア相談でもなく心理相談でもないスタッフ面談が多くなるのは当然の結果と言える。

サポステは相談が主となるので若者支援の最初の入り口となる。それゆえ就労というゴールを目的とするだけでなく、サポステに来ることだけでもきちんと評価できる形を準備しなければならない。山頂までの道のり

は一步一步、階段ならば一段一段上るわけでの歩き方、上り方も人それぞれだ。サポステに来る若者一人一人に個別具体的に対応してきたからこそそのスタッフ面談で、逆にスタッフ面談こそがサポステの相談の軸になるのは至極当然の結果といえる。未来永劫、サポステが国の事業として継続することはあり得ない。とするならば、国や県の事業がなくても継続できる若者の相談の場作り、そして居場所としての場作りをどのように広げていくかが今後の課題である。

## **(2) 他人の風プロジェクト (若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援)**

### **とちぎユースアドバイザー**

本来、この「ユースアドバイザー」は内閣府が主管しており、機関別の支援に留まることなく、全てを横断的に支援できる方を養成することを目的に 2008 年度より始められた。一方、本会が運営する「とちぎ若者サポートステーション」も 2007 年度の開設より徐々に利用者も増え、現在では電話やメールでの対応も含めると毎月のべ 800 人を越える若者に対応している。しかしながら限られた予算の中、スタッフだけでは滞留する若者や悩みを抱える若者への対応が後手後手に回ってしまうという現状がある。そこで、ボランティアで若者を支援できる地域の人を増やすことを目的に、「内閣府ユースアドバイザー」と連動した「栃木独自ユースアドバイザー」を本会が実施するように許可を取った。2009 年から開始し 2010 年度で第 3 期を修了し、40 人の修了生を送り出すことができた。講座開催するに当たって、受講生として将来的に若者に実際関わっていただく方を養成するという観点で、受講料はすべて本会負担で参加者無料というスタイルで開催している。

#### **ユースアドバイザー会議 (14 回)**

4/16 (1、2 期生 13 人) 4/29 (3 期生 11 人) 5/21 (4 人)、5/28 (3 期修了式・13 人)、6/11 (1、2、3 期 7 人)、7/23 (1、2、3 期 9 人)、8/20 (1、2、3 期 9 人)、9/17 (1、2、3 期 7 人)、10/15 (1、2、3 期 7 人) 11/19 (1、2、3 期 6 人)、12/17 (1、2、3 期 5 人)、1/15 (1、2、3 期 6 人)、2/25 (1、2、3 期 9 人)、3/31 (1、2、3 期 9 人)

#### **ユースアドバイザー活動**

○サポステでの居場所プログラム「ふらっと (毎週金曜日の午後に開催)」「月の庭 (女性限定で、土曜日 2 回開催)」を第 2 期生の早川さんと第 3 期生の青木さんが担当してくださっている。「ふらっと」には毎回 15、6 人の若者が集まり、悩みごとをユースアドバイザーに相談したり、歌やゲームに興じたりしながら同世代間の交流を深めている。

○サポステでの講座プログラム「心と体のセルフケア (月 1 回の火曜日に開催)」を第 2 期生の坂主さんが担当してくださっている。若者と昼食と一緒に作りランチを共にしながら、食の大切さをお話くださっている。時には、若者の悩みにも耳を傾けてくださっている。

○ユースアドバイザーへの当初の役割として念頭にあった「個別対応」は、そのマッチングの難しさや個人にかかる心理的重圧を懸念し、なかなかその流れを作れないできた。そのような中、ユースアドバイザーの活動として「個別対応」を希望されていた第 2 期生の江村さんに、20 歳の女性との関わりを依頼、現在も定期的に連絡を取り合ったり会ったりしながら、ボランティアならではの本人に寄り添った支援を行ってくださっている。

## **事業報告 D.【情報センター】**

### **(1) 『とちぎVネット・月刊ボランティア情報』の発行事業 (Vの啓発・普及事業)**

V活動・市民活動の啓発、普及、推進のため『月刊V情報』を毎月1300部(年10回)発行した。会員のほか、県内NPO法人、教育委員会、社会福祉協議会、福祉施設等へ無料配布し、県内の市民活動の情報を提供した。職員、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員1人による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

本会情報誌は年間80万円以上の持ち出しをして関係機関・団体への無料配布をしており、結果、県内の市民活動が活性化していることは確かだが、概して無料配布している施設・団体からの反応や応援はなく「NPO



同士の支えあい」は深まっていない。支えあいの関係が必要である。

月	号	特集記事	月	号	特集記事
4月	180	報告/東日本大震災・ボランティアの1か月①	10月	185	座談会/仮設住宅支援
5月	181	特集/大震災・どうなる？ どうする？	11月	186	さろん再録86/路上の生活困窮者の支援
6月	182	サロン再録83/「学ぶ方法を学ぶ」国際自然大学校	12月	187	特集/除染ボランティア
7-8月	183	特集/認定NPO法人制度&NPO税制の改正	1-2月	188	新春企画/災害ボラやった人アンケート
9月	184	報告/東日本大震災救援活動(中間報告)	3月	189	サロン再録/「Your Placeひだまり」開設1年

## (2) 新聞情報収集・データベース化 (Vの情報資料の収集・提供事業)

V活動、市民活動の情報を提供するため、新聞4紙から記事を要約しデータベース化するとともに、記事のダイジェストを『月刊V情報』にも掲載した。ボランティア3人の毎週の切り抜きにより実施した。年度途中からメンバーが高齢化を理由に活動を停止した。メンバーの補充をしながら活動継続を模索中である。(新聞切り抜き隊：大野幹夫、安藤、皆川)

### ① 取材への対応・報道

新聞・テレビ、ラジオ、雑誌からの取材に年間36回対応した。東日本大震災関係、フードバンクの報道が多かった。

回	発行	取材マスコミ(内容)	対応者	回	発行	取材マスコミ(内容)	対応者
1	4/1	下野新聞・「心をつなごう」石巻ボラ同行取材	現地	19	6/8	言論 NPO・インターネット TV「ボランティアはなぜ減ったか」	矢野・他3人
2	4/3	下野新聞・「第1陣帰還」 同行ルポ	現地	20	6/16	毎日新聞・支援の形多様化	事務局
3	4/7	毎日新聞・インタビュー	矢野正広	21	7/4	VIOS・インタビュー	矢野正広
4	4/7	下野新聞・ボラ募集	事務局	22	7/7	福島民報・避難者ネット構築へ	現地
5	4/7	毎日新聞・ボラ募集	事務局	23	7/8	日経新聞	徳山篤
6	4/9	下野新聞・「支援継続を」被災地ルポを終えて下	事務局	24	8/9	下野新聞・ユースワークキャンプ in 気仙沼	事務局
7	4/15	とちぎ朝日・「ボランティア急募」	事務局	25	8/12	FM 栃木・生放送	徳山篤
8	4/18	下野新聞・雷鳴抄		26	8/16	下野新聞・まけないぞう	滝口奈緒美
9	5/6	とちぎテレビ取材	徳山篤	27	10/16	下野新聞・栃木ボラ講座	
10	5/9	下野新聞・2万人キャンペーン	矢野	28	11/1	下野新聞・とちぎ暮らし応援会発足	ぼぼら
11	5/15	下野新聞・震災メッセージ	瀬戸川麻結	29	11/14	下野新聞・内閣府防災ボラ検討会	
12	5/19	読売新聞・ボラ募集	事務局	30	12/12	下野新聞・ホームレス食事会	徳山篤
13	5/21	読売新聞・2万人キャンペーン	事務局	31	12/16	下野新聞・ホームレス夜回り	今藤雄
14	5/21	下野新聞・2万人キャンペーン	塚本竜也	32	1/1	下野新聞・正月版(12/4千厩仮設もちつき 写真取材)	現地
15	5/23	下野新聞・2万人キャンペーンビデオ撮影	現地	33	1/13	毎日新聞・まけないぞう	徳山篤
16	5/25	毎日新聞・避難者茶話会	石田遥香	34	1/18	下野新聞・まけないぞうキャラバン	事務局
17	5/26	下野新聞・日光茶話会で餃子づくり	現地	35	2/20	朝日新聞・まけないぞうキャラバン栃木	滝口奈緒美
18	5/30	下野新聞・2万人キャンペーン・インタビュー	岡崎エミ	36	2/23	下野新聞・まけないぞうキャラバン佐野	現地

### ②原稿の執筆

本会が実施する事業について、新聞・学会雑誌等からの原稿依頼に対し役職員が執筆、寄稿・投稿した。

回	月日	「タイトル」掲載紙・出版社名	執筆者
1	2012/3/11	・中間支援団体の寄付あつめ 『ボランティア白書2012』 広がれボランティアの輪連絡協議会編・筒井書房	矢野正広
2	2012/5/31	・縁による支援 『最後のひとりまで「震つな」-東日本大震災新活動の記録』 発行：震災がつなぐ宣告ネットワーク×日本財団 ROAD 東京事務局	矢野正広

### ③ウェブサイトによる情報の提供

本会が直接的に実施する事業について、ホームページ、twitter、FacebookなどのITメディアによって情報発信した。9月にはホームページの全面変更をした。東日本大震災のボランティア募集や寄付の募集ではホームページから情報を得たという人も多く、30代以下のボランティア参加者のほとんどがホームページから情報を得ていた。また、twitter、Facebookでも情報を発信することでボランティア参加型の情報提供ができるようになった。これらの更新頻度はほぼ毎日となった。

## 事業報告 E.【調査・研究・連絡調整・ネットワーク】

### (1) とちぎVネット災害救援ボランティア基金 (NPOの活動資金の援助事業)

主に国内で発生した自然災害などに際し、緊急救援ボランティア活動が必要な場合の初動の活動資金を援助する (P66「基金運用規定」による)。今期は2つの災害の寄付を募り他団体に助成した。

東日本大震災の寄付は**12,833,589円**となり、前期と合わせて**累計19,051,476円**の寄付となった。寄せられた寄付金をもとに栃木県内から今後1年以上復興支援を行うNPOに助成する「復興支援活動サポート助成事業」(P67「助成要綱」)を立ち上げた。(概要:助成総額500万円(暫定)、理事の推薦による応募、理事会の決定で助成、随時実施)。第1回の応募(推薦)は10月に行い、1月の理事会でトチギ環境未来基地に250万円の助成を決定した。次期は1団体に助成予定である。

8月に発生した**紀伊半島大水害**では**46,941円**をボランティア活動支援金として助成した。

今後も本会の災害救援活動に使うほか、一部を他団体に助成して救援活動を進めていく予定である。

街頭募金 9/10・11/紀伊半島水害街頭募金(青木、大泉、飯山、塚本、槻木沢、吉川V、滝沢、矢野・菊池・徳山、短大生2、小学生3)
--

### (2) 震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)への加盟、運営 (Vの連絡調整事業)

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク(略称=震つな)」へ加盟し、職員を同ネットワークの事務局長として業務にあたらせた。今期は東日本大震災の特別事業として「震つな+東海地震等を想定した広域ネットワーク委員会」が共同で日本財団ROADプロジェクトの助成を受け加盟団体の総合事務局を担った。直営事業として「ROAD足湯隊」の派遣、仮設支援連絡会の立ち上げ、**現地会議**を主催した。

また震つなを経由した日本財団ROADプロジェクトの本会への間接支援は、**現地活動拠点「キャンプ八郎右衛門」の建設・貸与、物品購入費、運営費の負担、コピー機・印刷機の貸与、車両貸与、現地採用スタッフ人件費(0.5人分)、助成金250万円**であった。

また会議や研修にはオールとちぎメンバーを積極的に派遣するようにした。**内閣府「防災ボランティア会議」**にも引き続き参加した。

5/21 震つな総会(矢野他13人/東京)	10/11 震つな・仮設支援連絡会(矢野他20人位/東京)
5/11 震つな・ロードプロジェクト会議(矢野・上田他15人/仙台)	12/20 震つな・仮設支援連絡会(矢野/東京)
6/20 震つな・仮設支援連絡会(矢野/東京)	1/24 震つな・仮設支援連絡会(矢野/東京)
7/20 震つな・ロードプロジェクト会議(赤木・徳山/仙台)	3/16 震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)4役会議(矢野/東京)
8/23 震つな・仮設支援連絡会(矢野・徳山・赤木/東京)	

### (3) 「全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」実行委員会の運営

#### (Vの連絡調整事業)

全国の市民活動やV活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第29回全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」を6月17-19日に実施した。企画・準備のため本会職員1人を派遣し、年度末までに3回の会議に参加した。当初は本会が主宰で栃木・日光を予定していたが、3月に東日本大震災が発生したので急きょ予定を変更し被災地岩手に行く「民ボラ・バス」を企画した(2011/6/17-19 東京発・岩手往復)。次期の民ボラも栃木で開催する。

2011年6月 17日～19日	<b>第29回民ボラ in 東北 (緊急企画!!)</b> <b>「民ボラ・バス」で行く! 学ぶ・議論する…災害時=ボランティア・市民活動団体の心技体</b>
<b>(趣旨)</b> 東日本大震災どうする?! 東北は「遠いから」「離れてるから…」と考えてるかもしれませんが、民ボラでは「やってみて考える」というボランティア・スタイルに忠実に、ボランティアバスで現地に行く「民ボラ・バス」を企画しました。被災地はとても広いのにボランティアがない・足りない状態です。今回は「足湯」や家屋の片づけ・泥出しなどの活動に取り組みながら、これからのボランティア・市民活動支援団体の役割とアクションと一緒に考えましょう。遠隔地とはいっても関東はまだまだ近い方。首都圏のボランティア・市民活動推進者の役割は非常に大きいです。ご参加お待ちしております!	
(スケジュール/内容) <b>6/17</b> 22:00 集合 (日本財団ビル: 東京都港区赤坂 1-2-2) <b>22:00 【技】</b> ◎「足湯」を学ぶ 23:00 東京発(車中泊)  <b>6/18</b> 6:00 「遠野まごころ寮」着→朝食 7:00 遠野市社会福祉協議会・「遠野まごころネット」視察 8:00 遠野→大槌へ(バス乗換え) <b>9:30 【技】</b> ◎A: 足湯 B: 泥だし 12:00 昼食 (復興食堂) <b>13:00 【技】</b> ◎A: 泥だし B: 足湯 16:00 大槌町発⇒途中入浴⇒宿泊場所 (花巻温泉) <b>19:00 【全体会①】</b> ◎ふりかえり・講義:【心】復興「もうひとつの社会」 ●村井雅清(被災地NGO協働センター代表/震災がつながる全国ネットワーク・顧問)	●多田一彦(遠野まごころネット副代表) 21:00～懇親会  <b>6/19</b> <b>9:00 【全体会②】</b> ◎講義:【技・心】「災害ボランティア文化—震災—学びの16年」 ●栗田暢之(震災な・代表/レスキューストックヤード代表理事/JCN代表世話人) ◎講義:【体=予測&支援態勢】広域連携の態勢と課題—数字・時間・ニーズ 矢野正広(とちぎボランティアネットワーク常務理事・事務局長/震災な・事務局長) ◎講義:【技】福島でおきていること—避難生活の支援 ●宮下加奈(減災・復興支援機構専務理事、ネットワーク三宅島代表) <b>10:40 【全体会③】</b> ◎【技・行動】中間支援組織として企画戦略を考える 進行: 矢野・鳥羽: やりたいこと出し→カテゴリー毎にグループ討議、個別企画書作成) 13:00 バス東京へ(昼食はバスの中) 20:00 東京着
●2011年6月17日(金)22:00集合～19日(日)20:00(東京着の場合) ●対象: 全国の民間ボランティア・市民活動推進団体の役職員・スタッフ、関心のある方、など40人 ●参加費: 3,000円+宿泊代10,000円(懇親会費込) ●宿泊先: 花巻市内ホテル(調整中) ●持参物: □リュックサック、ディパックなど…活動中に両手が自由に使える。□衣類(作業着・着替え)…ケガ防止のため長袖・長ズボン □雨具(上下)…汚れても洗い流せる、防寒にもなる。□長靴か安全靴…鋭利な物を踏むかも。丈夫なものがよい。□軍手かゴム手袋…滑り止め付き・厚手の物がGood。□帽子…安全対策のため □マスク&ゴーグル(草刈り用)…ほこり、粉塵対策。□飲み物…現地購入可。 □常備薬 □健康保険証のコピー □筆記用具・メモ用紙 ●締切: 2011年6月11日(土)	
<b>■実行委員会参加団体:</b> ■とちぎボランティアネットワーク ■茨城NPOセンター・コモンズ ■富士福祉事業団 ■世田谷ボランティア協会 ■東京ボランティア・市民活動センター ■山梨県ボランティア協会 ■静岡県ボランティア協会 ■大阪ボランティア協会	
5/8 民ボラ会議(矢野・鳥羽、水谷/東京) 12/8(木)民ボラ会議(矢野、枝見、松山、高山、阿部、岡村/東京) 1/31(火)民ボラ会議(矢野、松山、枝見、岡村、安久、高山、阿部/東京)	

#### (4)「公益ポータルサイト運営団体・関東ブロック会議」の参加・運営

とちコミポータルなどNPOの情報公開と資金獲得を進める公益ポータルサイトを運営する民間団体の会議に参加した。今年度の関東ブロックの会議は八王寺市民活動推進協議会の主催で実施した。当日は関東から約40人の参加があった。

5/13 公益ポータル関東ブロック会議(八王子/矢野・前田) 11/12 公益ポータル全国会議出席(矢野)

# 事業報告 F. 【フードバンク宇都宮】

## (5)フードバンク事業 (Vの啓発・普及事業) ★新規

### ①被災者・被災地支援

2011年4月から事業開始となったフードバンク事業であるが、開始前月に発生した東日本大震災の影響で事業そのものよりも災害救援の活動が優先された。やや災害救援活動が落ち着き始めてきた6月頃から被災地で炊き出しをするために集めた白米5t程ストックしていたが、被災地の炊き出しが必要なくなったため福島県から栃木県に避難してきた人達に1世帯当たり30kgを引取りで配ったのが初めての仕事となった。5tの内900kgは気仙沼市の被災地に提供した。

避難者・被災地支援 (白米及び玄米提供) 期間: 6月から8月にかけて実施		
被災地	気仙沼市	現地支援団体と協同し復興市で900kg配布
避難者	主に福島県からの避難世帯	1世帯当たり30kgを131世帯に配布

### ②研修会参加

事業は開始したもののフードバンクのノウハウは不足していたため、日本初のフードバンク団体である東京のセカンドハーベストジャパン (以下2HJ) での実地研修や仙台市の東北ふうどばんくアサイン (以下アサイン) の行う他団体へのフードバンクノウハウ移転事業の対象団体となりノウハウを教わりながら事業を進めることとした。

年度後半より食品運搬車両や食品倉庫が揃ったことにより、試運転を開始することになった。試運転に当たっては配送先の施設を選定してフードバンク説明会を行った。

■NPO法人 セカンドハーベストジャパン実地研修 : 8月23日(火)	参加者
場所: セカンドハーベストジャパン事務所 内容: 2HJの配送ボランティアの人と同行し、実際の食品の受け取りと配送先に運ぶ実地訓練を行う。 配送先の施設を訪問し食品を受贈する施設の種類やフードバンクについての意見等を聞く。	徳山 赤木

■NPO法人 東北ふうどばんくアサイン 出張研修等	参加者
①フードバンク説明会 10/6 場所: ぼぼら 内容: 受入施設側のフードバンクについての説明	②フードバンク運営指導 8回実施 実施日: 10/20、11/10、11/17、12/8、12/22、1/19、2/23、3/8 場所: とちぎVネット
	①6団体 ②徳山赤木

■フードバンク関係外部会議やシンポジウム等の参加
10/16 フードバンクシンポジウム (東京/徳山) 主催: 2HJ、2/18 仙台市フードバンクフォーラム・主催: 2HJ(仙台/徳山) 2/19 フードバンク団体情報交換会 in 仙台・主催: アサイン(仙台/徳山)、3/4 全国フードバンクネットワーク会議 in 仙台・主催: アサイン(仙台/徳山)

### ③フードバンク活動

当団体と関係の深い企業などからの食品の寄贈や、11月に第1回フードドライブで集めた食品で貯蔵重量が1t以上となった。これにより施設に不定期ながら配送を実施することが可能になった。しかし、施設に配送するより緊急に支援すべき個人の困窮者の申し出が多いことがこの活動を通して実感することになり、Vネットを頼って訪ねてくる困窮者が多いことでそちらの支援が一時的に優先となり、困窮者の中には東日本大震災における避難者の姿を見ることもあった。

■困窮者への食品引渡し : 22世帯に支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・11/29 さくら市在住の困窮者(単身者) ・12/5 さくら市在住の困窮者(単身者) ・12/16 さくら市在住の困窮者(単身者)</li> <li>・12/27 さくら市在住の困窮者(単身者) ・12/28 さくら市在住の困窮者(単身者) ・1/4 さくら市在住の困窮者(単身者)</li> <li>・1/7 足利市在住の外国人難民(3人家族) ・1/24 福島県からの自主避難者(2世帯) ・2/1 さくら市在住の困窮者(単身者)</li> <li>・2/1 宇都宮市在住の困窮者(単身者) ・2/3 福島県からの自主避難者(単身者2名) ・2/7 さくら市在住の困窮者(2人家族)</li> <li>・2/8 福島県からの自主避難者(単身者) ・2/14 さくら市在住の困窮者(3人家族) ・2/28 宇都宮市在住の困窮者(単身者)</li> <li>・3/6 宇都宮市在住の困窮者(単身者) ・3/14 さくら市在住の困窮者(単身者) ・3/27 宇都宮市在住の困窮者(単身者)</li> <li>・3/29 さくら市在住の困窮者(単身者) ・3/30 宇都宮市在住の困窮者(単身者)</li> </ul>

2月に東京の2HJを通して大量の清涼飲料水2,500本やとちぎコープさんよりお菓子を入荷することにより、2月から3月にかけて県内の多くの施設を配送で訪ねることにより顔がつながるきっかけとなった。

■施設または団体への食品引渡し 16施設又は団体に提供		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 たいじょうぶ 11/11、12/8、3/16、3/21</li> <li>・NPO 法人ひまわり 12/9、3/15</li> <li>・コメールアミーゴス 12/22、1/27、3/14</li> <li>・NPO 法人青少年の自立を支える会 3/14</li> <li>・NPO 法人自由空間ボー 3/14</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木ダルク 11/15、3/14</li> <li>・NPO 法人あいあい会 3/10、3/29</li> <li>・ひばり作業所 3/15</li> <li>・ひよこの家 3/15</li> <li>・山元町仮設住宅 1/20</li> <li>・あじさい会 3/8</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YMCA とちぎ 3/10</li> <li>・NPO 法人はばたき 3/24</li> <li>・まごの手 3/24</li> <li>・マルコの家 3/29</li> <li>・白河市仮設住宅 1/14</li> </ul>

■2011年度の食品入出庫の数量	
入庫数量	出庫数量
7, 706 kg	5, 966 kg

## (2) ホームレス支援

本来のフードバンク事業とは違ってしまいが、仙台のアサインさんとセットでホームレス支援団体のワンファミリー仙台によりホームレス支援のノウハウ移転を受けることになった。

9月にワンファミリー仙台、アサインさんと合同で宇都宮市街地のホームレスの実態調査を行った。手法としては昼間については公共施設やデパート・スーパーマーケットを中心に調査し、夜間についてはホームレスと人たちが住処としていそうな公園や河川の橋の下を調査した。調査結果は宇都宮市街地付近において約40名程度の存在が確認することになった。

10月に調査結果をもとにホームレスがいる場所に夜回りを実施し、声をかけ聞き取り調査を実施した。9月に発生した台風の影響で河川の橋の下の住人は激減したことにより、我々の夜回り対象のホームレスは激減してしまって、純粋な路上生活者を訪問できる人数は数名のみとなっていた。

10月より週1回夜回りを実施することによってホームレスと関係性も出来てきたため、ホームレスやそれに準じた人達を対象に11月から食事会をすることになった。これ以降毎月1回実施した。

これ以降ホームレスの人たちの情報が入るようになり、1名の女性ホームレスを支援しグループホームにつなげることが出来た。

■ホームレス昼回り (2回実施) 夜回り (21回実施)	
●9/8 昼回りホームレス調査 (市街地を中心/矢野、徳山、赤木)	●9/8 夜回りホームレス調査 (市街地を中心に実施/矢野、徳山、赤木、菊池、鷹橋、関口、中山、渡辺)
●10/6 夜回りホームレス調査 (徳山、大泉、福田)	●10/13 昼回り、夜回り (徳山、大泉、福田)
●夜回りのみ 10/20、10/26、11/2、11/9、11/16、11/23、12/7、12/14、12/21、1/11、1/18、2/1、2/8、2/15、2/22、3/7、3/14、3/21 (いずれも参加者 徳山、大泉)	

■ホームレス及び準ホームレス食事会 (5回実施)		参加者	参加者
11/30 メニュー：生姜焼き定食 (徳山、大泉)	7名	2/25 メニュー：けんちん雑煮 (徳山、大泉、佐藤)	5名
12/27 メニュー：カレーライス (徳山、大泉、菊池、瀧田)	8名	3/28 メニュー：カレーライス (徳山、大泉、飯山、瀧田)	5名
1/25 メニュー：和定食 (菊池、飯山、瀧田、徳山、滝澤)	5名		

## 事業報告 G. 【災害ボランティア・オールとちぎ】

### (1) 救援・復興支援事業 (災害救援活動)

今年度は、東日本大震災、福島県南会津水害、紀伊半島大水害の救援活動を行った。特に3月11日に発生した東日本大震災の救援活動は現在も継続中である。震災関連での**年間のボランティア活動実績は 41,581 時間**(P58「注記」参照)となり、**1日8時間×5284人が活動**したことになる。

救援活動では本会のこれまでの経験が十分に生かされたものの、このような大規模災害では圧倒的に力量不足であることも痛感し、本会自身の組織的許容量を増やすことと、県内他団体への活動促進・ノウハウの普及が必要であると感じた。

#### ア：東日本大震災の救援活動：宮城・福島・栃木県内

3月11日に発生した東日本大震災では直後から情報収集をおこない、翌日から街頭募金と事務局ボランティア募集を開始し、今年度も継続して緊急救援活動、復興支援活動をおこなった。被害が広大な地域であることから当面の活動は、①県内被災地への救援、②県外被災地への支援、③福島からの(原発)避難者への対応、④北関東エリアの災害救援活動をするNPOへの応援、⑤全国から被災地へ向かうボランティアへの支援の5つが考えられた。結果的に①の県内被災地へ対応は社協等のボランティアセンターに任せ、②③④の県外被災地の支援、福島からの避難者支援、および北関東の救援活動を行うNPOの支援を行った。

**県外被災地での活動**は当初、気仙沼、石巻、福島(郡山)の3か所であったが、年末には気仙沼(一関)、山元、白河・矢吹、いわきの4地点になった。さらに年度末には石巻が加わり5地点になった。気仙沼への支援は6月から岩手県一関市に**現地事務所「キャンプ八郎右衛門」**を設置、常駐職員を3人配置した。

**福島からの避難者支援**は当初の体育館等の一次避難所の運営支援から、那須・日光のホテルなどの二次避難所への支援、さらに民間賃貸住宅借り上げ仮設住宅(みなし仮設)への支援へと変化して行った。これらに対応するため年末年始にかけて県内避難者支援のネットワーク「**とちぎ暮らし応援会**」を組織し、本会も運営に参加した。また、茨城NPOセンター・コモنزの災害ボランティアチーム「**HOPEいばらき**」の立ち上げ支援をした。

ボランティア活動拠点へのボランティア募集、送り出しなどの**ボランティア・バス**の運行するとともに8月には若者向け「**ユースワークキャンプ in 気仙沼**」を実施。さらに5～6月にかけて「**栃木からボランティア2万人！キャンペーン**」を実施して、県内他団体とともにボランティア数の積み上げを行った。

こうしたハード面でのボランティア・プログラムを実施するとともに、ソフト面でのボランティア・プログラムとして、**足湯ボランティア**、**まけないぞう**、**仮設住宅でのV飯**、**縁台作り**などのプログラムを行い、コミュニティ形成支援や仕事・生きがいをづくりを実施した。

キャンプ八郎右衛門の開設後からは、本会が加盟する震災がつなぐ全国ネットワークの日本財団ROADプロジェクトと共同して「**ROAD足湯隊**」を受け入れ、東京や全国からのボランティアとともに気仙沼市内の避難所や仮設住宅で活動を行った。

また、年度末には**1周年行事「3.11から1年・被災地のいま、とこれから」**と題した集会をとちぎYMC Aなど他団体とともに実行委員会を組織して実施した。

東日本大震災での寄付金は2011年3月11日から2012年度末で**累計 19,459,321円**となった。「栃木から現地に行くボランティア活動の支援金」としての寄付であるため、この寄付金の中から本会以外で県内から復興支援活動を行う団体へ「**復興支援活動サポート助成**」を創設、今年度は**トチギ環境未来基地**(いわき市を支援)に**250万円**の助成を行った。(詳細はP33「災害救援ボランティア基金」の運営)

#### ア-1.【支援プログラム① 継続派遣：3月30日～5月26日】

##### 岩手県一関と福島県郡山に拠点を設け、ボランティア毎回20人募集・派遣

3月17日～5月26日の間、一関と郡山の拠点で3泊4日または4泊5日のボランティアを20人ずつ交代

で送り、前チームと引き継ぎながら継続的に運営できるようにした。

宮城県気仙沼市（気仙沼地区、唐桑地区、本吉地区）ではガレキ撤去、家屋の片づけ、ボランティアセンターの運営などを行った。郡山では福島県内各地（福島市、相馬市、南相馬市、田村市、いわき市、宮城県丸森町等）へ炊き出し、物資配布、避難所運営の活動を行った。

気仙沼市へのボランティアは5月26日以降現在も週末を中心に2泊3日または1泊2日の形で継続している。

①避難者「生活支援」＆「炊き出し」計画			
○支援地区は福島県郡山市方面、宮城県気仙沼市方面（4月1日現在）			
○当面は、被災者の生活支援を行います。（炊き出し、避難所運営、家屋泥だし、ボラセンのスタッフなど）。			
○郡山、気仙沼に「とちぎVネット」の拠点を設ける予定です。			
○現地拠点へ週2回ボランティア・バスを往復させ、最大28人の宿泊型ボランティアを交代で派遣			
水曜・出発チーム（4日間・3泊4日）		土曜・出発チーム（5日間・4泊5日）	
チーム	日程	参加	バス便提供
第1陣	3/30→4/2	18人	塩谷町社協（塩谷）
第3陣	4/6→4/9	17人	栃木県青年会館
第5陣	4/13→4/20	28人	栃木県青年会館
第7陣	4/20→4/23		
第9陣	4/30→5/4	28人	
第10陣	4/30→5/4	20人	栃木県青年会館
第12陣	5/7→5/11	20人	栃木県青年会館
第14陣	5/14→5/18	20人	栃木県青年会館
第16陣	5/21→5/25	20人	栃木県青年会館
チーム	日程	参加	バス便提供
第2陣	4/2→4/6	17人	塩谷町社協（塩谷）
第4陣	4/9→4/13	28人	栃木県青年会館
第6陣	4/16→4/20	28人	栃木県青年会館
第8陣	4/23→4/27		
第9陣	4/27→4/30	20人	栃木県青年会館
第11陣	5/4→5/7	20人	栃木県青年会館
第13陣	5/11→5/14	20人	栃木県青年会館
第15陣	5/18→5/21	20人	栃木県青年会館
※派遣ボランティアのほかにも特別チームのボラも募集。申し出ただければ調整します。			
※参加費：5,000円。学生・無職は3,000円（往復交通費・食費の一部負担金です。ボランティア保険500円込）。			
●宇都宮発：朝6時半（郡山着：9時 気仙沼着：12時） ●気仙沼発：13時（郡山発：15時半 宇都宮着：18時）			
※なぜ、宿泊型の活動なの？ →避難所運営などは1日だけくるボランティアも必要ですが、被災者の方と仲良くなって、初めて「実は・・・」と要望を話してくれるのではないかと、思います。だから、数日滞りするボランティアや繰り返し来るボランティアが必要なのです。栃木からは同じ人が繰り返しでは行きにくいので、こうした滞在型の活動形態をとっています。			

## ア-2.【支援プログラム② 継続派遣：5月27日～現在】

### 岩手県一関の拠点への週末ボランティア便による送り出し。

日本財団ROADプロジェクトの支援で6月10日にドーム型プレパブ「キャンプ八郎右衛門」が完成した。これまでの“運動会テント”から比較すると格段に居住性が向上した。一方でボランティアの申し込みが連休以降格段に減りボランティアバスの定員を満たせないことから、ワゴン車をボランティアが自力で運転し現地に行く週末便を開始した。当初は金曜夜発日曜夜戻りの2泊2日便だったが、その後木曜夜発の3泊3日、さらに秋からは2泊2日に戻した。12月から2月にかけてはボランティア参加者が少なく、1泊2日や運行中止もあった。3月末からは毎週1、2人となっている。

**毎週末、金土日（2泊2日）で気仙沼へ。継続して参加できる方、大募集！！**

※10日パターンも数人募集します。詳しくはとちぎボランティアネットワークまで。

#### ■活動概要

○個人宅等での泥出し作業や避難所（仮設住宅）などで足湯をきっかけにコミュニケーションを築き、避難生活の応援をします。これからは息の長い活動になります。（現地での活動時間は9：00～16：00頃を予定。変更もあります）

○ワゴン車2台と乗用車で現地へ往復します。運転は参加者が交代で行います。

○集合場所：とちぎボランティアネットワーク事務局1階 当日に、報告会・足湯の講習会をしてから出発します。

■行程：●金曜 18：30 集合（説明会、足湯講習会）20：00 出発→25：00 キャンプ八郎右衛門着 ●土曜 9：00～16：00 活動、16：00～キャンプ八郎右衛門泊 ●日曜 9：00～14：00 活動 15：00 現地発、20：00 宇都宮着解散

○報告会：次回行かれる方のために、現地から帰ってきた週の金曜日 18時30分から事務所で行います。その後、次の人たちの送り出しも参加してください。（必須）

○参加費：一般5000円（宿泊費500円×2日＋交通費負担金4000円）学生3000円（宿泊費500円×2日＋交通費負担金2000円）

※参加費は当日集めます。宿泊費は水道光熱費などの共益費です。※ボランティア保険は別。※お車で来られる方は受付時に申し出てください。

#### ■宿泊について

○宿舎は栃木の宿泊拠点：日本財団助成で建てたドームハウス「キャンプ八郎右衛門」（キャンパチ）です。シャワー・仮設トイレ付きです。宿舎では電気・ガス・水道等が使えます。○原則として自炊です。近隣（5キロ先）スーパー利用可。器具・備品等あり。

## ア-3.【支援プログラム③ 夏休み特別企画「ユース・ワークキャンプ in 気仙沼：8月8日～9月10日】

### 若者による1週間のワークキャンプ型ボランティアの実施。

週末隊だけでなく、1週間程度の比較的長期のボランティアを呼び込むため、(NPO) トチギ環境未来基地の全面的な協力を得て、ユースワークキャンプ in 気仙沼を実施した。参加者・地元住民にとって非常に好評

であった。

### 夏休み特別企画 ユースワークキャンプ in 気仙沼

3月11日に起きた東日本大震災から4か月。被災地の状況も変わってきています。全国、世界から様々なボランティアや支援が広がり復興へ向かっていますが、まだまだボランティアのチカラを必要としています。とちぎボランティアネットワークでは、夏の間、1週間のワークキャンプを気仙沼で4回開催します。各地から集まる仲間、地域の人たちと協力しながら、気仙沼の復興に向けて共に活動しませんか？

※ワークキャンプとは合宿型ボランティア活動。寝食を共にしながら地元の人と協力し、チームで活動するボランティアです。

第1期 8/8月-14日 第2期 8/17水-23火 第3期 8/26金-9/1木 第4期 9/4日-9/10土

◆活動(ワーク)内容/〇がれきの片付け 〇子ども達と遊んだり、勉強をしたり活動の企画・運営 〇その他現地のニーズに応じての活動(各回で、異なります。地域の祭りの企画運営、子どもキャンプ企画運営等)

◆活動先・生活拠点/宮城県気仙沼市を中心に活動。一関市のボランティアハウス、キャンパチで宿泊します。

◆募集人数/8人(1人はリーダー) 定員になり次第、閉め切ります。原則 18~34歳の若者対象。チームの活動を調整するリーダーの募集もしております。(リーダー参加費免除) ワークキャンプ終了後、長期ボランティアとして現地に残留して活動することも可能です。

◆参加費/社会人 10,000円 学生 6,000円(宿泊・食費含む)

◆集合場所/1日目の午後 JR一関駅集合(詳細は受入決定後ご案内いたします)

	午前	午後	夜
1日目		集合・オリエン	
2日目	ワーク	ワーク	イベント企画
3日目	ワーク	ワーク	
4日目	ワークショップ	イベント準備	イベント
5日目	ワーク	ワーク	
6日目	ワーク	ワーク	
7日目	ワーク	片付け・解散	

### ア-4.【支援プログラム④ 栃木からボランティア2万人キャンペーン】

栃木県内から2万人の応援を。他団体の応援とともに、共同で実施。

4月25日~6月10日の間、被災地にボランティアを栃木県内から2万人送り出そうというキャンペーンを県内他団体と協働で実施した。県民全体の運動になるように宣伝活動を行い、またボランティアバスの運行の仕方等のノウハウ提供、現地でのコーディネート、手配等の調整をし、他団体の応援をした。期間中は(合計5362人、うち本会2348人)

●ボランティアバスの運行…毎週水・土・日の3日間、本会主催で50人乗りのボランティアバスを運行するとともに、バス会社の募集によるボランティアバスの運行支援(ボランティアの募集、コーディネート)を実施。さらに他の48団体のため運行支援を行った。この企画の運営のために現地ボランティアセンターとの調整役としてスタッフを2人を常駐させ、同時にバス便等や駐車場の手配、バスに同行する添乗員ボランティアの派遣を行った。

●動画・新聞によるキャンペーンの宣伝…キャンペーンを県内の個人や団体に呼び掛けるために新聞紙面での広告を出すとともにタイアップ記事も作成、他にプロボノの協力を得て動画撮影とYoutubeによる配信をおこなった。( [http://www.youtube.com/watch?feature=player\\_embedded&v=7ZfGo8htyL8#t=11s](http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=7ZfGo8htyL8#t=11s) )

【ボランティアバスの運行】 ※ ( ) 内は2万人キャンペーン期間の数

行き先・バス運行形態	期間(キャンペーン期間)	便数(期間便数)	のべボランティア数(期間人数)
気仙沼&郡山・滞在型	3/17-5/28 (4/25-5/28)	17便(10便)	1143人(612人)
石巻・日帰り型	4/9-7/3 (4/25-7/3)	36便(30便)	1614人(1371人)
気仙沼・週末型	(6/10-8/14)	10便(10便)	208人(208人)
その他石巻・気仙沼	(7/18-9/1)	12便(12便)	157人(157人)
本会合計			3122人(2348人)
他団体	(4/25-9/25)	—	3014人(3014人)
合計			6136人(5362人)

被災地は広大であり、本会の試算では浸水家屋の泥出しや屋内片づけ関係のボランティア184万人(※)必要であったが、本会のボランティア送り出し能力では全く足りず、また栃木県内からのボランティアだけでも足りない。そこで栃木県からは「万」単位でボランティアを出すというメッセージを全国に発信する必要があった。2万人としたのは栃木県の人口が200万人であり、その1%が行くという呼びかけであった。

※半壊・一部損壊家屋23万8000棟の7割にボランティアが11人行く計算(238,000×0.7×11)

結果的にキャンペーンカウント数は5362人と少なく、盛り上がりももう一つであったが、動画撮影で500人の参加者を得ることができたり、9月の紀伊半島大水害では「ボランティアあと1万人」キャンペーンが行われ、また内閣府の防災ボランティア活動検討会の試案として「必要とするボランティア数推計値の計算式」が示されるなどの波及効果があった。



またボランティア・バス運行ができない、ボランティア・コーディネーションができない団体も多く、将来想定されている南海トラフ地震や首都直下型地震などで遠隔地からの救援活動に課題を残した。被災地内では災害ボランティアセンターの運営が満足にできないところも多く、外からのボランティアの受け皿がなかった。かねてから本会や震災がつなぐ全国ネットワークが必要性を主唱してきた「民間団体協働型」や「NPO/NGO 単独型」の災害ボランティアセンターは非常にまれであった。

本会の課題としては災害救援活動やボランティア・コーディネーション、ボランティア・プログラムの開発、被災地復興支援プログラムの開発ができる職員が少なかったため事業遂行や他団体・機関との関係調整に限界があった。

## ア-5.【支援プログラム⑤ 福島県南部の仮設住宅支援(白河市、矢吹町、田村市船引、いわき市)】

### 福島県の仮設住宅の住民の生活支援、コミュニティづくりの支援を行った。

6月から福島県内の活動を大幅に変更し、栃木から日帰りで福島県南部の白河市・矢吹町・田村市船引町、いわき市小名浜の仮設住宅等を訪問し、コミュニティ形成支援、生業支援(まけないぞうの作成)、子供たちには学習支援を行った。訪問は65回、321人が活動した。

手芸品による生業の支援として「まけないぞう事業」を実施した。寄贈いただいたタオルをゾウ型の壁掛けタオルに手縫いし、本会が買い取り販売するもので、国内版フェアトレードである「まけないぞう事業」は、白河・矢吹の仮設住宅でのコミュニティづくりと生きがいづくりにもなっている。平均で月に2万円程の収入になっている。(まけないぞう活動は気仙沼、いわき市でも実施)

福島県内の仮設住宅は、原発問題で津波被災地内に作れず遠隔地での避難生活となった。その点でもととのコミュニティが失われ、仮設住宅内でのリーダーが不在であり、よそ者が関与しないと人間関係ができない状態だった。本会は6月から仮設住宅に数日に一度(夏休み中はほぼ毎日)通い、信頼関係を構築することで仮設住宅の住民の自治組織の形成を促した。その結果10月には自主的に仮設住民の交流会を開催することになり、その後も毎週自分たちで昼食会を開催するようになった。

回	日付	時間	場所	人数	内容	回	日付	時間	場所	人数	内容
1	6/26	11-15時	白河中田	10	茶話会、マッサージ、日用品・食料品のバザー	34	10/31	10-14時	矢吹	3	茶話会、まけないぞう製作
2	7/18	11-15時	白河中田	4	茶話会、手芸・仕事作り(まけないぞう製作)	35	11/4	12-15時	白河郭内	3	打合せ
3	7/23	10-16時	白河中田	5	個々の聞き取り	36	11/8	10半-15半	白河郭内	2	ぞうの説明、打合せ
4	7/26	14-18時	矢吹	6	チラン配り	37	11/11	10半-15時	白河中田	9	昼食会
5	7/29	11-15時	白河中田	5	まけないぞう、茶話会	38	11/11	10半-15時	白河郭内	3	ぞう、昼食会
6	8/2	11-16時	白河中田	4	昼食会、子ども支援(遊び、レク)、ぞう製作	39	11/14	10-14時	矢吹	3	茶話会、まけないぞう制作
7	8/3	10半-15時	白河中田	5	昼食会	40	11/18	9-15半	白河中田	6	茶話会、昼食会
8	8/3	11-13時	矢吹	2	チラン配布(2か所)	41	11/21	10-14時	矢吹	5	茶話会、ぞう
9	8/6	10-16時	白河中田	5	茶話会、手芸(ぞう・布草履)、かき氷、レク	42	11/25	10半-15半	白河中田	4	茶話会、昼食会
10	8/7	10-13時	矢吹	16	衣料品バザー、かき氷、レク、マッサージ、ぞう製作	43	12/2	10半-14時	白河郭内	3	まけないぞう、昼食会
11	8/8	10半-15時	白河中田	8	茶話会、子ども支援(遊び、学習支援)、ぞう製作	44	12/3	10半-14時	白河中田	6	茶話会、まけないぞう
12	8/11	10半-15時	矢吹	7	昼食会、手芸	45	12/5	10-14時	矢吹	4	茶話会、がま口作り
13	8/18	10-15時	白河中田	2	まけないぞう製作	46	12/10	10半-15半	白河郭内	3	昼食会、まけないぞう
14	8/20	10半-15時	矢吹	8	昼食会、マッサージ、まけないぞう製作	47	12/12	10-15時	矢吹	4	茶話会、マッサージ、まけないぞう、手芸
15	8/21	10半-13半	白河中田	11	茶話会	48	12/15	10半-15半	白河郭内	3	昼食会、まけないぞう
16	8/24	10-15時	矢吹	6	そば打ち実演	49	12/26	10-15時	矢吹	8	餅つき
17	9/1	10-12時	矢吹	1	前回訪問のさい具合の悪かった方を訪問	50	1/10	10-14時	矢吹	5	マッサージ、ぞう、お茶会

18	9/2	10 半-15 半	白河中田	5	茶話会、昼食会、縁台づくり	51	1/14	11-15 時	白河中田	11	V 飯、子ども遊び 50 人参加
19	9/7	11-15 時	矢吹	7	茶話会、昼食会、手芸、レク	52	1/14	11-15 時	白河郭内	4	ぞう、V 飯
20	9/9	10 半-15 時	白河中田	5	茶話会、昼食会、縁台づくり	53	1/22	11-15 時	いわき小名浜	5	ぞう
21	9/14	10 半-15 時	矢吹	7	茶話会、昼食会、ぞう	54	1/23	10-13 時	矢吹	2	お茶、手芸
22	9/16	10 半-15 時	白河中田	9	茶話会、昼食会、ぞうり、まけないぞう、縁台作り	55	1/27	11-15 時	白河中田	5	ぞう、V 飯
23	9/20	10-14 時	矢吹	2	茶話会、まけないぞう	56	1/31	10-15 時	矢吹	4	アロマコラージュ、マッサージ
24	9/26	10-14 時	矢吹	3	茶話会、まけないぞう	57	2/3	11-15 時	白河中田	4	ぞう、V 飯、豆まき
25	9/30	10 半-15 半	白河中田	6	縁台作り、昼食会	58	2/6	10-14 時	矢吹	3	V 飯、ミニぞう
26	10/3	10-14 時	矢吹	6	茶話会、マッサージ、まけないぞう制作	59	2/17	11-15 時	白河郭内	4	ぞう、茶話会
27	10/7	10 半-15 時	白河中田	4	茶話会、昼食会、	60	2/18	11-15 時	白河中田	2	ぞう
28	10/14	10-15 半	白河中田	10	茶話会、昼食会、ぞう	61	2/22				ぞう
29	10/16	10 半-16 時	白河中田	4	住民交流会 (いも煮会)	62	2/27	10-12 時	矢吹	5	アロマ、ヨガ、シンキングボウル
30	10/17	10-14 時	矢吹	3	茶話会、マッサージ、ぞう	63	3/2	11-15 時	白河郭内	3	ぞう、V 飯
31	10/21	10 半-16 時	白河中田	5	茶話会、昼食会、縁台作り	64	3/24	11-15 時	いわき小名浜	3	ぞう、茶話会
32	10/25	10-14 時	矢吹	3	昼食会、ぞう	65	3/25	10-13 時	白河中田	3	アロマ、茶話会
33	10/28	10 半-15 時	白河中田	5	茶話会、昼食会		合計			321 人	

## ア-6. 【支援プログラム⑥ 栃木県内に来ている（原発等の）避難者への対応】

### 福島からの避難者へ生活支援、生業支援、コミュニティ形成の支援と個別 SOS に対応

3 月 21 日から福島・宮城への救援活動をおこないつつ、同時に福島から栃木に来た原発避難者への支援を県内 3 か所の避難所でおこなった。避難所の運営支援、足湯ボランティア、手芸（まけないぞうの制作）、通信の発行などの活動をした。

5 月から 7 月末は一次避難所から旅館・ホテル等の 2 次避難所へと避難者が移動する時期になったため、個別の旅館等に訪問し自治会づくりの支援をした。公民館の一室を借りて集会場を設け茶話会や避難生活の情報共有の場とした。特に 1 次避難所と 2 次避難所も併存した時期には県内各地に訪問し、避難者の情報共有とともに支援プログラムの情報共有に努めた。情報提供のために『福島だいじだ通信』を 4 回発刊した。

8 月から 10 月は 2 次避難所から「民間賃貸住宅借り上げ仮設住宅（みなし仮設）」へ移る時期になり、車がない人への「引っ越し」の支援をした。

また 7 月 3 日、7 月 4 日、7 月 31 日、10 月 31 日の 4 回、避難者にダイレクトメールを送り、物資配布、情報提供とともに県内各地での被災者の定期的な集会への案内をおこなった。

さらに、8 月からは本会などが呼びかけ、県内各地の NPO 支援センター、社会福祉協議会、栃木県、福島県、NPO など 50 団体により「とちぎ暮らし応援会」を結成し、行政との協働により福島からの避難者を応援するネットワーク組織を設立した（1 月 1 日発足）。同会の運営のため臨時職員 1 名を派遣し、事務局の業務に当たらせた。

<p>●県内避難者支援ボランティア ・避難所訪問:41 回 ・本会事務所での避難者向け講習:33 回 ボランティア人数:のべ 606 人 ●通信の作成: 4 回 ●応援会の実施: 3 回 ●SOS への対応: 58 件[解決 38 件、できず・不明 18 件、取り下げ 2 件]・内容=引越し 6 件、物資ほしい 41 件、相談 5 件(情報提供、介護)</p>	<p>8/11 福島からの避難者支援(県・ぼぼら)、 10/31 とちぎ暮らし応援会「総会・シンポジウム」(菊池・徳山・矢野・君嶋) 1/22 とちぎ暮らし応援交流会(矢野、徳山、三浦、瀧田、滝澤、早川、永森、青木、塚本あ、塚本た、大木本)</p>
---	--

栃木県に来ている福島県からの原発等の避難者は約 3000 人である。公共施設、体育館等への一次避難からホテル・旅館への 2 次避難、そして“みなし仮設”への 3 回の移動により、そのたびにせつかくできた人間関係が崩れていくことを経験した。本会はこの流動化に対応するために県内の NPO・市民活動団体、社会福祉協議会とのネットワークを活用し情報の提供、交流の場づくり、物資支援・引っ越し・介護ニーズ等 SOS への対応を行ってきた。

こうした長期にわたる避難生活を見越して、栃木県内での避難者同士のつながり形成と自助組織の支援と、県内の避難者支援者のネットワークとして「とちぎ暮らし応援会」を設立した。

また本会で独自に食糧支援のプログラム「**フードバンク宇都宮**」（詳細 P35）を立ち上げた。これは今後、職も収入もなく、食品の購入にも事欠く避難世帯に対し寄贈いただいた食品を無償で提供するもので、「とちぎ暮らし応援会」に寄せられる SOS の中の生活支援を担っていくものである。今後避難者の生活状況の把握が進むにつれて、要支援世帯の増加が予測される。より一層の日常的な避難者支援が必要であろう。

## アー7.【ソフトプログラム①】

### 「まけないぞう」プロジェクト

被災者の仕事づくり、生きがいつくり、被災地のコミュニティの形成支援として、**被災地NGO協働センター(神戸市)**が阪神・淡路大震災の時から実施している「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付してもらったタオルを被災者に「ぞう」の形の手ふきに縫ってもらい、これを本会が1頭100円で買とり、400円で販売する“**国内版フェアトレード**”である。「ぞう作り」はもとより、タオルの寄贈、集荷、ラッピング、販売など様々な場面でボランティアが関わることができ、「かわいらしい、ぞうさん」を通じて支援者や被災者の間にかかわりが生じる**すぐれた復興支援プログラム**である。「仮設住宅ではやることなく、この先のことを考えると不安で眠れないが、まけないぞうを作っているときは辛いことを忘れられる」という方も多い。

現在はキャンプ八郎右衛門付近の気仙沼・本吉地区、唐桑地区と福島では矢吹町、いわき市の女性**約40人が作り手**となり、**月に2000頭**のまけないぞうが作られている。さらに今年に入って、いわき市の作り手さんたちが自分たちでまけないぞう講習会をやり出すなどのボランティアな動きが起きている。

製作とともに販売では「**まけないぞうを置いてくれるお店**」を募るとともにホームページ等で紹介し、イベントで出張販売した。まけないぞう取り扱い店舗は**23店**になった。また販売促進のため1月～3月にかけて「**まけないぞうキャラバン**」を**8回**実施した。キャラバンではまけないぞうの作り手のお母さんたちを招き、被災地の状況などを語る交流会を行った。その結果、今期は**約13000頭、536万円**の売り上げとなった。

#### ■まけないぞうキャラバン開催地

回	月 日	会場・主催	講師	担当者
1	1/17・10:00-12:00	浄鏡寺	3人：矢吹、栃木	青山、門馬、岡部、鈴木、滝口、早川、滝田
2	1/28・13:30-15:30	宇都宮まちづくりセンター	5人：気仙沼、矢吹	鈴木、滝口、矢野佳、滝田、飯山、安野、相川
3	2/19・13:30-15:30	とちぎ市民活動推進センター	3人：宇都宮、日立	鈴木、滝口、安野、相川、田波
4	2/22・13:30-15:30	佐野市社協	4人：船引、矢吹	鈴木、滝口、早川、滝田、田波
5	2/26・13:30-15:30	トライ東/とちぎYMCA	4人：気仙沼、白河	岡部、鈴木、滝口、早川、飯山、安野
6	3/3・14:30-16:30	真岡市市民活動推進センター	3人：気仙沼、いわき	鈴木、滝口、早川、相川
7	3/10・10:00-13:00	日光公民館/日光市災害VC	4人：矢吹、栃木	鈴木、滝口、早川、安野
8	3/19・13:30-15:30	栃木県労働者福祉センター	5人：気仙沼、白河	岡部、鈴木、滝口、矢野佳

## アー8.【ソフトプログラム②】

### 足湯ボランティア(ROAD足湯隊)

足湯ボランティアは「**足湯をしながら手をマッサージし、被災者のつぶやきを拾う**」ボランティア・プログラムである。スキンシップによるボランティアで被災者との垣根を取り除く直接的な効果のほかに、「つぶやき」を拾い、次の活動のモニターをするという目的もある。阪神・淡路大震災や中越地震で開発されたこのプログラムを、福島からの県内避難所や仮設住宅での訪問で実施した。

さらに、震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)が東京派遣するROAD足湯隊をキャンプ八郎右衛門で受け入れ、気仙沼や一関の仮設住宅に派遣した。ROAD足湯隊は気仙沼のほか遠野、七ヶ浜、郡山など震つな関係団体の活動拠点に283人が派遣され、のべ1万件の「つぶやき」を記録した。このつぶやきは東京大学と連携して、内容を分析している。

## アー9.【ソフトプログラム③】

### 仮設V飯、縁台作り

福島での仮設住宅への訪問が6月以降活発になってきたが、その中で「自治会ができない」という課題があった。毎週顔を見せてボランティアとの信頼関係をつくるだけでなく、仮設住民同士が自発的に仲良くなるためのプログラムも積極的に開発した。仮設V飯は、炊き出しで何かしてくれるのを待つのではなく、自分たちで昼食をつくり仲良くなることを目的としたものである。V飯は本会の毎週火曜日に行う災害ボランティアの会議時に夕飯200円を食べてから会議をする形式をまねたもので、白河の仮設住宅では、昼食100円で実施した。現在では白河2か所と一関2か所の仮設住宅で実施している。自分たちで昼食をすることで、役割ができたり、顔見知りが増えたり、夏祭り交流会をするなどの効果があった。

V飯もまけないぞうも茶話会も出てくるのは女性ばかり。縁台作りは、仮設住宅内に閉じこもりがちな男性向けのプログラムとして開発した。木工は男性には人気で、作る目的があると会話が始まる。おしゃべりが得意でない男性には最適のプログラムである。縁台づくりは白河、一関の仮設住宅で行われている。集会室の中は女性、屋外は男性となっている。

## ア-10.【啓発・普及イベント】

### 「3.11から1年～被災地のいま、とこれから」

とちぎYMCAなど5団体との共催で3.11から1年目のシンポジウムを行った。1月から実行委員会を組織し、毎週1回の会合を行った。また1年目行事にからめて、現地ボランティア参加者の再度の参加を促すため1600通のダイレクトメールを発送した。被災地のこれからの各地の被災者とともに考える機会となった。

3月25日 12:00-16:00	3.11から1年[被災地のいま、とこれから]	参加
	■被災地交流集会：気仙沼・南三陸・石巻・仙台・白河・矢吹・いわき…被災地7か所からのゲストによる報告とメッセージ ■栃木からの応援 これから：県内各地の被災地支援をする市民活動団体による、現在とこれからの支援プログラム (日程・内容) 12:00-12:30/ オープニング・全体会 12:30-13:50/ 各地会…7か所の各被災地の部屋にわかれて被災地からのゲストと支援団体から、現状・課題を聞き、これからの考えます。 ●30分：休憩 14:20-16:00/ シンポジウム・全体会…「これまでと、これから」を全員で考えます。各地を応援している栃木からの支援団体リーダーに支援の教訓・課題を聞き、これから栃木からどう復興を支援できるかの討論会を行います。	130人
◎主催：「3.11から1年」実行委員会 ■とちぎYMCA（宇都宮）…仙台を拠点に東松島、石巻、南三陸、登米、山元を広範に支援中。 ■とちぎボランティアネットワーク（宇都宮）…栃木と一関を拠点に白河・矢吹、いわき、山元、気仙沼、一関を仕事とづくりと仮設訪問で広域に支援中。■トチギ環境未来基地（益子）…いわき市の仮設住宅や河口の海岸林整備を若者の力で支援中。■チーム龍JIN（那須烏山）…石巻・牡鹿半島を支援中。■とちぎ暮らし応援会（宇都宮）…県内に住む避難者を支援中。■宇都宮まちづくり市民工房（宇都宮）…いわきの仮設住宅支援		

## B 福島県南会津水害(只見町、金山町)救援活動

7月30日に発生した南会津・新潟中越地方の水害で、水害の被害が大きかった只見町、金山町の災害ボランティアセンターを通して、家屋の床下の泥の撤去、片付けのボランティア活動を行った。8月3日には調査隊を派遣、一般公募のボランティア・バスを8月7日、10日、11日の3回走らせ、のべ58人が現地で活動した。

## C 紀伊半島大水害救援活動

9月上旬に発生した紀伊半島大水害では、街頭募金等でボランティア活動支援金を募り、わかやまNPOセンターに「ボランティア活動支援金」として46,941円を寄付した。

街頭募金 9/10・11(矢野、菊池、徳山、青木、大泉、短大生2、小学生3、飯山、塚本、槻木沢、吉川、滝沢)

## (2) 啓発・普及活動(災害救援活動)

### ①講師の派遣、講座の実施

災害・防災についての啓発のためにオールとちぎメンバーを主に図上訓練の講師として派遣した（P22 講

師派遣事業参照)。また年度末にYMC Aなど他団体ともに「311 から 1年・被災地のいま、とこれから」を実施した。

## ②ネットワーク・研修会・会議への参加

静岡県ボランティア協会が6年前から実施している「静岡県内外の災害ボランティアの広域図上訓練」に6人が参加し関係者間のネットワークを作った。また、日本災害復興学会でも本会の取り組みを報告するとともに、被災地支援の課題を提起するため論文等を提出し、学会で発表した。

国の会議としては内閣府「防災ボランティア活動検討会」に出席した。

6/29 JCN福島会議(矢野、青木/福島)	11/3 内閣府防災ボランティア活動検討会(矢野)
8/11 福島被災者支援ネットワーク第二回シンポ(徳山、赤木/郡山)	3/11 栃木県主催「311 から 1年目の追悼行事」出席(矢野)
7/10 福島支援ネットワーク(矢野・徳山・赤木・菊池・青木/郡山)	

## ③会議

オールとちぎ会議を年間で44回開催した。定例は毎週水曜日午後7時からで、夜の会議なのでV飯という夕食を一緒に作って食べてから会議にしている。一人200円以上のカンパで職員が交代で作っている。

また、災害に関してチャリティイベント等を共催していただくなど応援を頂いた。

<p><b>■オールとちぎ定例会議 45回 毎週水曜 19時から</b>          5/3(12人)、5/10(20人)、5/20(10人)、5/27(11人)          6/3(13人)、6/9(10人)、6/16(11人)、6/23(11人)、6/30(20人)          7/7(18人)、7/14(16人)、7/21(8人)、7/28(10人)          8/4(13人)、8/11(13人) 8/18(16人)、8/25(10)、8/31(13人)          9/7(15人)、9/14(14人)、9/21(8人)、9/28(13人)          10/5(13人)、10/12(19人)、10/19(15人)、10/26(20人)          11/2(8人)、11/9(16人)、11/30(13人)          12/7(17人)、12/14(18人)、12/21(16人)          1/4(13人) 1/11(16人)、1/18(21人)、1/25(16人)          2/1(10人)、2/8(10人)、2/15(14人)、2/22(17人)、229(12人)          3/5(12人)、3/14(9人)、3/21(18人)、3/28(15人)</p>	<p><b>■災害関連イベント・会議</b>          6/4-5/キャンプ八朗右衛門へ「ひこばえの森」イベント(10人)          6/15・2万人キャンペーン実施団体会議(塚本他2人、徳山、吉井、矢野、柴田、JTB、岡崎他3人位)          6/25 福島どうするか会議(25人位)          7/10 石巻ボラどうするか会議(塚本、他)          827 福島県の県南地域絆づくり支援センターと意見交換(徳山・赤木)          9/5 非電化工房訪問(矢野、小野、滝口、佐藤記者/下野)          10/9 ベジファーム・チャリティコンサート(矢野、滝口、徳山、赤木、大泉V、門馬V、田波V、滝澤V、槻木沢V、矢野V2、田村V2)          11/10 那須放射線測定ボラ・取材(矢野、石川)          11/23 茨城NPOセンター・コモンズでの除染作業&amp;取材(石川)</p>
---	--

## 事業報告 H. 【とちぎコミュニティ基金（とちコミ）】

企業・市民がNPOを支えるための「資源循環の仕組み」と「NPO側の情報公開」を促進するため県内中間支援型NPO7団体による共同事業として「とちぎコミュニティ基金」の運営およびファンドレイジングを行った。5月にNPO春の合同寄付キャンペーン「寄付ハイク」をおこなったが、東日本大震災の影響で周知ができず、参加21人、390,450円の寄付となった。冠基金は「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」を今期も実施し、6団体に総額49万円の助成をした。今年も「とちぎゆめ基金」と「メイン基金」の助成は中止した。

また、年度途中の9月から栃木県の新たな公の担い手支援事業で本会が企画提案した「とちぎコミュニティ基金運営強化事業」を受託し、ホームページのリニューアルやNPOの情報開示の支援を行った。とちコミの運営では常に事務局の労力の確保が課題であったが、この事業の受託により従来の業務を強化することができた。ファンドレイジングの研修や助成事業の運営を通して、中間支援団体間・運営委員間の連携が進んだことも成果であった。

※1月に名称を「とちぎコミュニティファンド」から「とちぎコミュニティ基金」へと変更した。

とちぎコミュニティ基金運営委員会実施日：7回 8/23(5人)、9/16(9人)、10/21(5人)、11/18(6人) 2/17(7人)、3/21(6人)  
3/10とちコミ・花王助成金贈呈式(くららで・30人)

### ■とちぎコミュニティ基金とは

#### 1、とちぎコミュニティ基金の仕組み

とちぎコミュニティ基金の仕組みは大きく、「寄付(お金・モノ)システム」と「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク)」の2つがある。同ファンドが集めた寄付を情報公開(NPOデータバンクに登録)している団体に対してだけ助成する。

#### 【寄付システム】

寄付システムには2つの仕掛けがあります。(1)メインファンド(とちぎコミュニティファンド本体助成)、(2)冠(かんむり)ファンドです。また、寄せられた寄付金の中から20%~40%をファンド運営経費として使用することも条件とした。

(1) **メイン基金(とちぎコミュニティ基金本体助成)**は「とちぎコミュニティファンドに直接に寄せられた皆様からの寄付金を合わせて、分野ごとに助成する仕組みです。助成する団体は原則公募方式とし、審査や選考も原則公開で行います。

(2) **冠(かんむり)基金**は企業や団体(個人)からの寄付で、特に分野やテーマを指定して応援したい場合、寄付者のお名前や、助成目的を冠した特別枠のファンドを作ります(原則は毎年継続の大口寄付です)。助成する団体は原則公募方式で、審査や選考も原則公開で行います。本体ファンドとあわせて、楽しい選考会を行いましょう

#### 【NPOデータバンク】

「市民活動団体の情報公開」は寄付くださる市民・企業の側と、NPO・市民活動団体側との信頼をつくりだすために不可欠のものです。この「NPOデータバンク」に登録された情報はホームページ(<http://tochikomi.canpan.info/>)で公開するほか、県内各地の中間支援団体で閲覧できるようにします。また、このとちぎコミュニティファンドからの寄付・寄贈品の助成を受けようとする団体は、「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク CANPAN)」への登録が必須条件になります。「信用できる市民活動団体を自信をもって紹介すること」が目的です。現在17団体が登録している。

#### 2、運営

とちぎコミュニティファンドの運営は、趣旨に賛同した**中間支援団体6団体の共同運営(本会、とちぎ協働デザインリーグ=とちぎボランティア・NPOセンター、宇都宮市民まちづくり工房、コラボレー真岡、とちぎ市民活動推進センターくらら、かめま市民活動広場ふらっと)**とし、団体の共同プログラムとする。会議は毎月1回行う。

### ■とちぎコミュニティ基金運営強化事業

事業名	NPOへの寄付推進と寄付先NPOの信用保証を行うインターネットサイト強化事業
目的・コンセプト	「公」の担い手として注目を集めているNPOであるが、実際のところ、市民からの認知は進んでいない。市民の多くは社会の役に立つことをしたいと思っているにも関わらず、そうした市民の思いの受け皿となるべきNPOのことを良く知らないことから、ボランティアや寄付をするなどの社会参加が進んでいない。そうした市民の思いをNPOにつなぐ、寄付ポータルサイトを構築・運営し、寄付の機会を可視化し、寄付先NPOの情報開示による信用保証を行うことで、市民からNPOへの寄付を促し、寄付という形での市民の社会参加を進め、寄付の受け皿であるNPOの活動の発展に寄与することを目的とする。
概要	市民からのNPOへの寄付を進め、その寄付先であるNPOの信用保証を行うためのインターネット上のサイトである「とちコミポータル(日本財団公益コミュニティサイトCANPAN内 <a href="http://tochikomi.canpan.info/">http://tochikomi.canpan.info/</a> )」をリニューアル・強化する。 <リニューアル・強化のポイント> ①市民からNPOへの寄付の機会を創出すること ②創出したまたは既存の寄付機会をインターネット上に公開、可視化すること ③寄付先であるNPOの情報開示を促し、信用保証を行うこと <具体的な事業内容> ① 寄付機会の創出 ●テーマ別の寄付メニューづくり

	<p>とちぎコミュニティファンドの中に、広く市民から寄付を集めてNPOに助成する仕組み「メインファンド」がある。この中に、寄付者が寄付の用途をイメージしやすいように「母子・父子家庭の生活支援寄付」、「障害者の社会参加支援寄付」など、テーマ別の寄付枠をつくり、テーマごとの寄付集め、助成の運営準備を行う。</p> <p>●ジャストギビング等への登録・活用支援 チャリティープラットフォームが運営するジャストギビング等、インターネット上にはNPOが寄付を集めるための仕組みがある。そうした仕組みをNPOに紹介すると同時に、ITスキルに乏しいNPOに対して登録・活用の支援を行う。</p> <p>●合同寄付キャンペーン、寄付イベントの開催 とちぎコミュニティファンド登録団体を中心に、4月～6月の3ヶ月間を重点期間とした合同寄付キャンペーンを実施する。参加団体の連絡先や活動内容、寄付振込先を一覧の形で掲載した寄付募集の合同パンフレットをつくり、参加したNPOに届ける。参加したNPOは、パンフレットを活用して、会員やボランティア等、周囲の支援者に寄付を呼びかける。 合同寄付キャンペーンと連動して、参加NPOが周囲の支援者に寄付を呼びかけるきっかけをつくるために「寄付ハイク」等の寄付イベントを実施する。</p> <p>② 寄付機会の可視化 ●寄付ポータルサイトの構築 前述の寄付機会の他、県内において他主体が取り組むチャリティコンサートなど既存の寄付イベントの情報を収集し、それら寄付機会を広く県民に周知するための情報サイトをインターネット上に構築する。サイトは「とちぎポータル」をリニューアルする。 サイト訪問者の意向に沿って、寄付先団体・テーマにスムーズにたどり着けるよう設計することと、直感的にやりたいことをする手順を踏めるように、わかりやすいデザインにも留意する。 ●寄付ポータルサイトの周知 上記ポータルサイトをより多くの方に見ていただくための取り組みを行う。寄付ポータル案内パンフレットを作成、配布するとともに、相互リンクを増やしたり、表題を工夫するなどして、検索されやすく多くの方に見てもらえるようにする。そのための工夫はWeb専門家等のアドバイスを受けながら行う。 ●NPOの資金・物品ニーズの調査 とちぎコミュニティファンドに登録するNPO等を対象にして、何を目的としてどのくらいの資金やどんな物品を必要としているのかをアンケートと聞き取りにて調査し、その結果をまとめ、上記寄付ポータルサイトにて公開する。</p> <p>③ 寄付先の信用保証 NPOの情報開示の促し…前述の寄付ポータルサイトの中で寄付先となるNPOについて、社会のどんな課題に立ち向かい、どんな社会を目指し、どんな活動をやっているのかがわかるように情報の公開と毎年の更新を促し、寄付ポータルサイトの中で公開していただく。もっと詳しい情報を得たい方向けに、毎年の事業報告書や決算諸表等も公開していただく。各団体にて公開していただいた情報について、県内各地の市民活動支援センター運営者である当事業の共同応募者が、日常のセンター運営の中で得られる情報や総会資料、活動実態との整合性をはかり、第三者認証を行うことで一定の信頼性を担保する。 開示情報のインターネット登録にあたり、ITスキルに乏しいNPOに対して、登録支援・代行を行う。</p>
	<p>スケジュール。</p> <p>●H23年度</p> <p>9月：事前会議（以降の会議委員の選定と参画依頼） ・ジャストギビング等既存寄付サイトの情報収集と研究開始</p> <p>10月：事前会議（ポータル強化イメージ、寄付メニュー等検討） ・寄付イベント企画開始と会場下見</p> <p>11月：会議（ポータル強化イメージ決定、寄付メニュー等検討） ・ジャストギビング等既存寄付サイトの周知と活用呼びかけ</p> <p>12月：会議（ポータルコンテンツ等検討、寄付メニュー決定）</p> <p>1月：会議（ポータルコンテンツ決定、ポータルデザイン等検討） ・ジャストギビング等登録支援開始（以降随時実施） ・合同寄付キャンペーン参加団体募集</p> <p>2月：会議（ポータルデザイン決定） ・寄付メニューテーマごとのNPOとの意見交換会開催 ・寄付ポータルリニューアル開始（リニューアル中も公開） ・合同寄付キャンペーンパンフレット作成と配布</p> <p>3月：会議（NPOの資源ニーズ調査検討） ・合同寄付キャンペーン参加団体作戦会議</p> <p>●H24年度</p> <p>4月：NPO資源ニーズアンケート発送 ・メインファンドのテーマごとの寄付募集チラシ作成会議（事業の中間報告、ポータルパンフレット等の検討） ・合同寄付キャンペーン開始</p> <p>5月：ポータルパンフレットの印刷依頼 ・メインファンドのテーマごとの寄付募集チラシ印刷依頼 ・寄付イベントの開催</p> <p>6月：NPO資源ニーズアンケート回収、結果の取りまとめ・分析 ・ポータルパンフレット版下確認、最終校正</p> <p>7月：会議（アンケート結果の共有、聞き取り調査先等の検討） ・資源ニーズ聞き取り調査 ・ポータルパンフレット配布開始 ・合同寄付キャンペーン結果集計、参加団体振返り会実施</p> <p>8月：アンケート結果をサイトに反映</p> <p>9月：NPOへの情報開示呼びかけ開始（以降、随時実施）</p> <p>10月：NPOへの情報開示支援開始（以降、随時実施）</p> <p>↓</p> <p>2月：事業結果の取りまとめ開始</p> <p>3月：事業報告書作成</p>
<p>実行体制</p>	<p>・会議の組成：共同応募者＋NPO・行政等関係他者…陣内、安藤、田中、土崎、中村、町田、土屋、石垣、高橋、矢野、前田、及び新規雇用者※種々の検討、決定はこの会議で実施。</p> <p>・各種呼びかけ等：共同応募者が地域ごとに担当する…（安藤、土崎、中村、町田、土屋、石垣、矢野、前田、新規雇用者）</p> <p>・各会議の準備等（土屋、矢野、前田、新規雇用者）</p> <p>・ジャストギビング等の情報収集（前田、新規雇用者）</p> <p>・ジャストギビング/寄付ポータルへの登録支援（前田、新規雇用者、共同応募者）</p> <p>・ポータルリニューアル（前田、新規雇用者、高橋）</p>
<p>アピールポイント</p>	<p>1、県内各地の市民活動支援センター職員が関わることで、個々のNPOと顔の見える関係の中で活動実態等の把握ができるため、第三者認証の信頼性が向上する。</p> <p>2、寄付先NPOの信用保証のためのインターネット上の情報開示場所について、とちぎコミュニティファンドは既に日本財団CANPAN内でのポータル開設契約を結んでおり、サーバー代等をかけずにポータルを運営することができる。このことで、経費を節減できると共に、個々の団体の開示情報について、日本財団のネームバリューにより、一定の信用を付加することができる。</p> <p>3、既存の寄付サイトを利活用することで、経費や労力の節減となると共に、寄付先NPOの全国的な周知も多少ながら図ることができる。</p> <p>4、参加するNPOと一緒に寄付集めを行うことで、NPOが自分達の取り組む課題を支援者に伝える</p>

期待される効果	1、市民のボランティアや寄付を通じた社会参加が進む→会員数、ボランティア数、寄付金額・件数の増加 2、参加するNPOが寄付集めの経験を持ち、NPOへの寄付が増加する。また、参加するNPOが寄付集めの経験を持つことで、見えにくい部分ではあるが、NPOが支援を得るための情報開示・発信の重要性に気づき、今後の情報開示・発信への動機付けとなる。→寄付金額・件数の増加、NPOの情報発信機会の増加 3、NPOが可視化され、NPOが広く信頼を得ていく→日本財団CANPANで情報開示を行う団体数の増加 22団体→30団体
---------	---

## (1)メイン基金の運営 (NPOの活動資金の援助事業)

メイン基金は本会内に「とちぎコミュニティ基金特別会計」を設けて認定NPO法人としての寄付控除を活かして運営する。冠基金とは違って、とちコミ運営委員会直営的にNPOに公募、配分できる資金として受けつける。前期は集まった寄付金を初めて助成したが、今期からは財源がなくなったのでまた基金の積み立てを行った。

### ① 「寄付ハイク」の実施

定期的にとちコミの存在を知らせ、NPO自身の寄付の努力を促すため「NPO春の合同寄付キャンペーン」を実施した。とちコミ登録団体の中からキャンペーン参加団体を募り、振込口座公開したチラシを作成。ホームページとともにマスコミに広報を開始した。キャンペーンだけでは具体的なファンドレイジングが始まらないので、話題性があるイベントとして「寄付ハイク」を実施した。東日本大震災の最中であり周知が間に合わず、参加は21人、76,000円であった。

寄付ハイク前に説明会を行ったが、「やっと寄付イベントの意図がわかった」などの意見が多く、参加していない団体には趣旨が分からなかった。

キャンペーンで分かってきたことは、①周囲に「寄付をください」と声かけしている団体にしか寄付は集まらないこと。②寄付を集める意識が薄くNPO法人であることのメリットを十分に生かしていないこと。

NPOの活動推進は、複数のNPOと共同して寄付や支援者を集める切磋琢磨の場が重要である。その意味で合同寄付キャンペーンは毎年継続して実施する必要があると感じた。

#### ■合同寄付キャンペーン「寄付ハイク」

<b>寄付ハイク 第3回：東日本大震災・パートナー寄付 (矢板ミツモチ山)</b> <b>山に登って爽快！な気分で寄付しよう！</b> 東日本大震災の被災地でテーマ毎に頑張るNPOを応援寄付。栃木の関連NPOが推薦・応援し、ご寄付を届けます。		参加 13人
6/4 (土)10-15 時(徒歩3 時間位)	<b>(趣旨)</b> こんなときだからこそ「山に登って、爽快な気分で寄付しよう！」未曾有の災害の中、自然は与えられた条件の中で日常を続けています。桜もほころび始めました。6月にはヤマツツジ、トウゴクミツバツツジなどが咲き誇っているはず(?)です。今回は、ツツジの名所、ミツモチ山(矢板市)です。ミツモチ山に登り、NPO代表者のプレゼンを聞き被災地のNPOと活動を選んで寄付しましょう！  A(初心者)コース：県民の森管理事務所前に集合(9:30)→学校平Pに移動→ミツモチ山へ B(中級者)コース：県民の森管理事務所前に集合(9:30)→ミツモチ山へ。 <b>■ルール</b> ：頂上に着いたら、同行したNPO代表者から寄付呼びかけを行います。それを聞いて応援したい寄付先を選んで2000円以上を寄付します。 <b>■寄付先</b> ：①参加する地元NPOが関連のある被災地のNPOを推薦し、そこ宛に寄付する。 ②被災地救援ボランティア活動支援金募金。寄付先は日本財団の「東北地方 太平洋沖地震支援基金」や国際協力NGOセンターの「東日本大震災 支援 活動まとめて募金」、地元では、とちぎボランティアネットワークの「東日本大震災ボランティア活動支援金」から選んで寄付。	寄付 21人

#### ■寄付ハイク●総額7,600円

<b>&lt;パートナー寄付&gt;</b> おおきな木⇒相馬市 24,500円 市民工房⇒うつくしま NPO ネット 8,000円 自由空間ポー⇒V ネット 9,000円 たすけあい大地⇒ぜえね 6,000円	はばたき⇒きょうされん 5,000円 まごの手⇒市民協 4,000円 和音⇒全国学童連絡協議会 1,000円	<b>&lt;直接寄付&gt;</b> あるべき支援を考える会 13,000円 だじょうぶ 2,500円 V ネット 2,000円 はが路 100km 徒歩の旅 1,000円
<b>■NPO法人</b> はばたき(日光/障がい者福祉) <b>■代表</b> ：広瀬 浩 <b>■〒</b> 321-1272 日光市今市本町16-9 <b>■TEL&amp;FAX</b> ：0288-21-3365 <b>■habataki@ec6.technowave.ne.jp</b> <b>■推薦団体</b> ：きょうされん <b>■推薦文</b> ：元は「障がい者共同作業所全国連	<b>■NPO法人</b> ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地(小山/地域福祉・まちかど美術館の企画運営・高齢者軽度生活援助) <b>■代表</b> ：中手 淳子 <b>■〒</b> 323-0031 小山市八幡町2-3-15 <b>■TEL</b> ：0285-22-7641 <b>FAX</b> ：0285-22-0248 <b>■daichi-machikado@vivid.ocn.ne.jp</b>	<b>■振込先</b> ：三菱東京UFJ銀行 本郷支店 普通 0012273 全国学童保育連絡協議会 代表 木田保男  <b>■NPO 法人</b> 自由空間ポー(宇都宮/障がい者福祉) <b>■代表</b> ：本郷秀嵩



<p>絡会」と言って、全国の小規模共同作業所の全国組織。障害者施策への要望や研修会・フォーラム等を行い、障がいのある方の暮らしが良くなるよう支援しています。はばたきはきょうされん栃木支部の副支部長を担っていますが、今回の大震災にあたり全国規模で義援金活動を行っており、関係職員の派遣等を行い被災地の支援にあたっています。</p> <p>■振込先：郵便振替 007-786225 きょうされん自然災害基金口</p> <p>■NPO法人まごの手（佐野/地域福祉）      ■代表：小暮 悦子      ■〒327-0001 佐野市小中町 297-3      ■TEL：0283-20-6066 FAX：0283-20-6055      ■npomagonote@marble.ocn.ne.jp      ■推薦団体：NPO法人市民福祉団体全国協議会      ■推薦文：自ら被災しながらも、地元の被災者支援を行っているNPOや市民団体を、同じNPOや市民団体に支えようと取り組んでいます。地元NPOや市民団体に人材や物資の情報を聞き、市民協会団体から募集し、派遣しています。また、被災者の受け入れ情報の収集・提供も行っています。他団体と「東日本大地震・被災地NPO支援全国プロジェクト」を立ち上げています。      ■振込先：三井住友銀行 浜松町支店 9101171 特定非営利活動法人市民福祉団体全国協議会</p>	<p>■推薦団体：蓬萊まちづくりコミュニティ ぜえね      ■推薦文：福島市郊外の住宅団地で、高齢者、交通弱者を中心として、全国初の民間無料循環バス（くるくるバス）を運行。団地中心部にあるショッピングセンターの一室で、サロン風居場所を運営。被災後 現在は、避難所から市営住宅に入居された被災者へ箸、茶碗、皿等1箱5人セットにして送る活動をしている。家電製品は高くて手が出ない。本来の事業も厳しい中、物資を運ぶガソリン代さえ苦しい状態。加えて、放射能の影響についても悩んでいる。後方からの支援として、是非、活動資金の面でも応援したい。      振込先：足利銀行 小山支店 普通 3350466 特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい大地 理事 中手淳子</p> <p>■NPO法人和音（日光/学童保育）      ■代表：齋藤真一      ■〒321-2344 日光市猪倉 3331-6      ■TEL&amp;FAX：0288-26-6466      ■Kei7love@sea.plala.or.jp      ■推薦団体：全国学童保育連絡協議会      ■推薦文：学童保育の普及・発展を積極的にはかり、学童保育の内容充実のための研究、施策充実、制度化の運動を進めている学童保育専門の団体です。被災地の学童保育への義援金を募っています。</p>	<p>■〒321-0973 宇都宮市岩曾町 1364-6      ■TEL&amp;FAX：028-664-4531      ■apulva@amber.plala.or.jp      ■推薦団体：とちぎボランティアネットワーク      ■推薦文：災害支援に実績のある団体です。今回の震災でもいち早く現地入りしました。組織体制もしっかりしているので安心して寄付を託せます。      ■振込先：足利銀行 宇都宮北出張所 普通 3019791 特定非営利活動法人自由空間ボー理事 本郷秀崇</p> <p>■NPO法人おおきな木（日光/中間支援）      ■代表：峯岸和光      ■〒321-1262 日光市平ヶ崎 468-6      ■TEL&amp;FAX：0288-22-7756      ■ookinaki@nakayoshi.cc      ■推薦団体：相馬市震災孤児等支援金      ■推薦文：この震災で両親を亡くされ、残された子どもたち。子どもたちへの支援は今後長期にわたります。相馬市教育委員会が窓口となって、震災遺児を支援するための寄付を募っており、寄付は学業・生活支援に使われます。日光市は江戸時代末期、相馬藩から日光の仕法（二宮金次郎が行った農村整備）にかかるお金を支援してもらいました。その恩返しです。（NPOの推薦じゃなくすみません）      ■振込先：東邦銀行 相馬支店 普通 1033249 ソウマシシサイコジシエンキン</p>
<p>5/26 寄付ハイイクのNPO向け議(3団体：本郷・養田・中谷・石崎・前田・矢野)          10/8 芳賀路10km 寄付の旅参加(矢野、滝口、青木、徳山、安藤、大泉、岡部・田村)</p>		

## (2)冠ファンド「花王・ハートポケット倶楽部(地域助成)」事業 (NPOの活動資金の援助事業)

花王株の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第5回目の助成金配分である。とちコミの宣伝を兼ねる意味で「NPOデータバンク」への登録を必須とせず、簡易な方法での応募とした。

審査は12月16日の第1次審査で6団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により3団体にしぼる方法とした。メイン助成は**20万円が1団体、10万円が2団体、サブ助成各団体3万円の総額49万円**である。応募は**12団体**だった。3月10日に「くららフェスタ」にて贈呈式をおこなった。

### ●花王・ハートポケット倶楽部・地域助成(栃木地区)の助成団体

<p>栃木県内のNPO・市民活動団体を応援  <b>2011年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成 (栃木地区)</b>  <b>(とちぎコミュニティファンド・冠ファンド助成)</b></p> <p>■「花王・ハートポケット倶楽部助成」について          花王株では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。</p> <p>■1、助成内容          ・助成総額：49万円          ・助成団体数：6団体          ・助成金額 ・メイン助成：20万円＝1団体、10万円＝2団体          ・サブ助成：3万円＝3団体          ・1次選考(書類審査)を通過した団体のうち、2次選考にもれた3団体にサブ助成として各3万円</p> <p>■2、選考までの流れ          ◎応募受付開始：10月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着          ◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティファンド運営委員会により、二次選考の6団体を選出。          ◎二次選考(投票選考)：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。</p>	<p>◎贈呈式・レセプション：3月10日。くららフェスタにて第1次審査通過団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。          ◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔にご報告ください。</p> <p>■3、応募団体の条件          ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない)          ②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと(1年お休みのあとの応募は可)。          ※とちぎコミュニティファンドの「NPOデータバンク(CANPAN)」への登録は、今年度は必須ではありません。</p> <p>■4、応募・問い合わせ先          とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」          栃木県宇都宮市堀田2-5-1 電話028-622-0021 FAX028-623-6036 H P <a href="http://tochikomi.org/">http://tochikomi.org/</a></p> <p>■メイン助成：イースタービレッジマルコの家(20万円)          那須高原自然学校、チャイルドラインとちぎ(10万円)          ■サブ助成：とちぎ生涯学習研究会、花通り会、いきいきライフフェスタ実行委員会          ■会議等：/12/16 花王・助成金審査会(矢野・石川、花王2、他6人)          3/10 くららフェスタにて贈呈式をおこなった</p>
---	---

### **(3)冠ファンド「とちぎゆめ基金」事業 (NPOの活動資金の援助事業)**

今年度は実施しなかった。

## **2. 事業報告【その他の事業】**

今年度は実施しなかった。

## **3. 財政運営**

### **(1) 会員**

会員数をが東日本大震災のボランティア活動の影響で急増し**679人**になり、昨年の613人からは66人の増加となった。一昨年の582人から比べると97人の増となった。

課題は増えた会員を一時的な関わりにししない方策を実施することである。ボランティア情報紙だけの関わりではなく、県内各地の会員が自分なりのかかわりがもてるようなありかた、活動できるチャンスやよりどころを作っていくようにすることが必要である。また、毎年会員が増えるような構造にする必要があり、フードバンクや寄付ハイクなど、ボランティアやファンドレイジングとの連動したアクションが必要であろう。

### **(2) 寄付**

また**年間寄付額は 18,554,597 円**と大幅に増加した。東日本大震災への寄付を差し引くいても昨年より120万円の増加であった。また、11月から1月末にかけて「2011年度・とちぎVネット年末年始募金」と街頭募金を実施し**1,602,204 円**の寄付額となり、昨年より60万円増（一昨年より20万円の増）となった。

災害関係の寄付が増えるとともに、一般化寄付など他の寄付も増えており、たすけあいのかたちとして寄付をしやすい雰囲気になってきたのではないかと思う。

前期からNPO法人会計基準を導入したため、ボランティアの活動時間を「時間の寄付」として「ボランティアによる役務の提供の評価額」を最低賃金で換算して、寄付として充当した。**ボランティア活動評価益は 29,535,300 円**となった。これまでボランティア否定論者からは「ボランティアはただ働き」等と揶揄されてきたが、この数字からはボランティアの力がいかに大きいかが実証された。こうした人々のお金にならない無言の働きによって公益の社会は維持されてきていたのである。生産性至上主義（労働至上主義）的価値にとって痛烈な批判となる。

12/17(土)街頭募金(矢野、菊池、徳山、大泉、石川、UFC3人、米山3、青木)  
12/18(日)街頭募金(矢野、菊池、徳山、大泉、滝田、滝口、UFC5人、尾関、三浦)

現在の寄付金の項目は以下の通り。

①一般寄付	通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）	銀行引落とし	オンライン寄付
②年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日～1月末まで	年1回と毎月引き落としの方法が選べる。	ホームページからクレジット決済ができる
③災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付		
④サンクスVクラブ	Vネット“後援会”メンバーからの寄付金(後述)		
⑤若者支援＝他人の風プロジェクト寄付	ワーキングスクールを支援するための寄付。企業等で受講生受入企業などからいただいている。企業が「若者の職業自立支援」のための寄付である。		
⑥フードバンクサポーター	フードバンク宇都宮に対する寄付		
⑦とちぎコミュニティファンド	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている		

### (3) 事業収入

自主事業収入は大きく「情報提供」と「講座」「物品販売」「その他」に分けられる。これらは事業毎に独立しており単独の収支は黒字だが、職員はこの他の非収益的事業（公益事業）に割く時間割合が多い。むしろ事業収入はそのものが目的ではなく、収益性があるミッション達成のための“こだわり事業”と言える。そのため事業単独での収益性が薄く、本会の自主事業にはなんらかの形で会費や寄付金での補填が必要とされている。今後伸びる見込みがあるものは災害・防災分野、若者支援分野の講師派遣事業であろう。

講師派遣事業は**188万円**の収入となった。ほぼ昨年なみの収入となった。受託事業収入は若者サポートステーション事業と新しい公共支援事業関係をあわせて**2045万円**であった。大きい委託事業中心だけの財源構成は非常に危険であることから、若者支援は同時に他の財源の開発をおこなっている。講師派遣、ボランティアな事業展開、寄付の推進を図る方向性を模索した。しかし、現場の個別対応で手が回らず、寄付等のファンディングはあまりできていない。

## 4. 組織運営

### (1) 会員総会

6月26日に定期会員総会を実施した。159人の出席（うち委任状133人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。

また本会員総会に先立って、6月25日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

### (2) 理事会（役員会）

定期理事会を3回開催した。

月日	議題/出席者
6/22 第1回理事会 (書面評決+常任理事会)	①□事業報告・決算について ※災害救援活動実施中であることから書面評決とし、後日常任理事会を開催して確認・決定した。栗山、徳山、増田、矢野、中野、山中、塚本た、柴田、二見、大浦 ・常任理事会：6/24(出席：栗山、徳山、矢野、塚本、前田)
1/12 第2回理事会	①半期事業報告・決算報告 ③若者サポートステ事業の分離について、②復興支援活動サポート助成について 栗山、二見、大浦、山中、市川、中野、吉田、矢野、塚本た
3/29 第3回理事会	①事業計画、予算について ②役員補充について、③会員種別・会費の額の変更について 栗山、中野、増田、徳山、矢野、大浦、塚本た

### (3) 運営委員会

運営委員会を9回開催した。運営委員は役員全員、職員全員、運営ボランティアによって構成されている。出席は任意だが、職員は必ず出席することになっている。だが会員からの運営委員がいなくなったことで、事実上の職員会議と同じようになっていた。そこで一昨年から運営委員会活性化のため委員を倍増した。まだまだ運営委員会自体の役割は模索中であるが、本会の日常活動の意思決定をしていくようにしたい。

当期も運営委員会とV情報を支える会(編集委員会)を同時に開催した。毎月第2火曜日夜8時に実施した。

●運営委員8人：矢野正広、中野健作、菊池順子、塚本明子、石川慎太郎、君島福芳、石田昌義、安藤芳樹	11/8(火)運営委員会(矢野、菊池、中野、塚本、石川、君嶋V、石田V、安藤V、大泉V)
7/26 運営委員会(矢野・中野・塚本・徳山・石田)	2/13(火)運営会議(矢野、中野、徳山、菊池、塚本、君嶋V、石田V、安藤V)
8/9(火)運営委員会・(矢野、菊池、中野、斎藤、塚本、石田V、君嶋V)	1/10(火)運営委員会(矢野、菊池、中野、塚本、石川、安藤V、石田V)
9/13(火)運営委員会(矢野・菊池・中野・塚本・徳山・赤木、石田V、安藤V)	2/14(火)運営委員会(矢野・菊池・塚本・中野・石川・徳山、君嶋V、石田V)
10/11 運営委員会(矢野、菊池、中野、徳山、石川、塚本、赤木、大泉)	

V、君嶋、安藤V)	313(火)運営委員会(矢野、中野、石川、塚本、君嶋V、石田V、大泉V&我妻)
-----------	---

#### (4) 役員、職員、Vネットサポーターの研修・懇親など

運営委員会が活性化してきたことで、以前からある研修システムが利用されだした。(交通費・参加費の7割を本会が負担)特に災害ボランティアオールとちぎでは、この研修規定を使って会議・研修に行っている。同様に職員・ボランティアを「東海地震の広域図上訓練」に参加させた。また、役員・職員・ボランティアの懇親を目的に1回の交流会(飲み会)を行った。

12/23 浄鏡寺掃除、12/28 忘年会(40人)

#### (5) サンクスVクラブ(後援会)

10周年を機会に、本会の後援会組織として「サンクスVクラブ」を結成した。Vネットへの**定期的な寄付(年間2万円)**をいただけること、クラブ員の親睦のため年に**2回の定例会(親睦会)**を行うことの2項目だけを条件にした「ゆるやかな」つながりが持てる会となっている。今年度は、春と秋に定例会を開いた**クラブ員は32人**となった(10年5月現在)。代表は元・本会理事の高橋昭彦さん(ひばりクリニック/宇都宮)

<b>サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日</b> (第1条)本会はサンクスVクラブと称する。 (第2条)本会の事務局を宇都宮市埴田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 (第3条)本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 (第4条)本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。 1. 寄付に関する事 2. クラブ員の親睦に関する事 3. その他、目的達成に関する事。	(第5条)本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 (第6条)本会に次の役員を置く。 [1] 代表 1名 [2] 副代表1名以上 [3] 会計 1名 (第7条)本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 (第8条)本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。	<b>役員名簿</b> 代表：高橋昭彦さん 副代表：高木敏江さん 会計&事務局：菊池順子 青柳拓也 赤木健一 飯島恵子 上田由美子 江波戸啓悟 大浦智子 大金和人 岡部昇子 鎌田一雄 鎌柄克美 木村和子 栗山宏 佐藤由紀子 関口清美 関根直久 早乙女正次 早乙女順子 高木敏江 高橋昭彦 高橋克法 竹内明子 長正仁 徳山雄一 中村明美 仲村久代 西岡隆平 木千紗子 福田雅章 二見令子 鱒淵元成 矢野正広 山中節子 若森正子 渡辺みゆき
4/17(日)サンクスVクラブ&災害V花見(50人)	10/2(日)サンクスVクラブ&秋の宴会(25人)	

#### (6) 各地域での会員の集い(V飯)

会員活動の活性化を図るため各地域ごとに「会員ハンター」によるボラ情報への取材を行った。その結果、各地で会員のつながりをつくる動きになり、**真岡地区会員の集い「V飯(ぶいめし)」**を3回実施した。V飯は200円の参加費で夕食を作り、一緒に食べながら互いの活動の情報交換と懇親を深めるもので、もともと本会事務所で災害ボランティアオールとちぎが毎週会議をするときに実施していることを応用したものである。今後は県内各地域で会員の集いが実施され、その後の支部的な動きになっていくことを期待している。

5/29 会員の集い・真岡(石田・矢野他8人)、9/4 真岡の会員の集い(石田・矢野他会員5)、1/15 真岡・会員の集い(石田・矢野他7人)

#### (7) 委員会・チームの会議、ボランティアの活動日

- ①ボラ情報を支える会(編集委員会)…『ボラ情報』の編集・制作を行うためほぼ運営委員会の時に会議を行った。企画、取材、執筆を行う。また『ボラ情報』の製本・発送作業のため毎月末3日程度のボランティアによる作業日がある。
- ②新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱…毎週木曜日13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム。
- ⑤災害ボランティア オールとちぎ…毎週水曜19:00から会議。200円で本会職員が作った**夕食(V飯)**を食べながら会議するのも魅力となっている。活動はほぼ毎週末の土日に行う。